

# **大阪府教育委員会文化財調査事務所年報**

**10**

2006年9月

**大阪府教育委員会**



## はじめに

平成17年度の発掘調査は、バブル崩壊後の景気低迷期とはいえ大阪府内における開発は減少することなく、平成14年度以降4年連続して年間発掘調査面積は増加し、58,000m<sup>2</sup>を超えていました。

発掘調査した遺跡の年代や性格も多種多様で、四條畷市所在の藤屋北遺跡では古墳時代の馬具が出土し、日本書紀に記載のある「河内の牧」、「河内の馬飼い」との関係がより明確になってきました。また、堺市所在の余部日置莊遺跡の調査では溶解炉が確認され、こちらも「河内鋳物師」あるいは「丹南鋳物師」との関係が注目を集めました。

両調査とも現地説明会には多くの参加者があり、府民の歴史への親心の高さを示しています。

大阪府教育委員会が実施した埋蔵文化財の発掘調査や普及啓発活動をまとめた「大阪府教育委員会文化財調査事務所年報」も、平成9年度から発刊しており今回で10冊目となりました。今後とも、文化財の普及啓発につながるよう、積極的に現地説明会を開催する一方、年報の充実にも努めてまいりますので、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成18年9月

大阪府教育委員会事務局  
文化財保護課長 丹上 務

## 例　　言

1. 本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第10回である。
2. 本書には、本府教育委員会が実施した平成17年度の発掘調査及び普及啓発活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。  
なお、概要報告表題の調査番号は第3・4表の調査番号と一致する。  
遺跡名（平成17年度調査番号）
  - (1) 所在地
  - (2) 調査の原因となった事業
  - (3) 調査担当者

4. 各項の執筆分担は次のとおりである。

「平成17年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査第一グループ　西口陽一
「調査概要報告」	調査第一・二グループ
「平成17年度普及啓発・広報事業一覧」	調査管理グループ
「平成17年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
「平成17年度資料の貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
「平成17年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グループ

5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。

6. 本書は500部作成し、一部あたりの単価は408円である。

## 目 次

はじめに

例 言

目 次

挿図目次

表 目 次

平成17年度における埋蔵文化財調査の概況 ..... 1

### 【主要発掘調査の概要報告】

龍屋北遺跡	(05001) .....	6
廻遺跡	(05003) .....	8
余部日置荘遺跡	(05006) .....	9
鳳東町4丁遺跡	(05012) .....	10
下池田遺跡	(05014) .....	11
新堂遺跡	(05015・05031) .....	12
禁野本町遺跡	(05016) .....	13
陶器遺跡・陶器千塚	(05017) .....	14
大和川今池遺跡	(05020) .....	15
太井遺跡	(05021) .....	16
千里丘2丁目所在遺跡	(05024) .....	17
府中遺跡	(05027・05037) .....	18
平石遺跡	(05028) .....	19
越屋北遺跡	(05030) .....	20
陶器南遺跡	(05038) .....	21
和泉寺跡	(05041) .....	22
安威(安威城跡)遺跡	(05044) .....	23
桑原遺跡	(05045・06001) .....	24
鮎川遺跡	(05046) .....	26
野端遺跡	(05060) .....	27
陵東遺跡	(05065) .....	28
平成17年度普及啓発・広報事業一覧	.....	29
平成17年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	.....	31
平成17年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧	.....	32
平成17年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	.....	39

## 挿 図 目 次

第1図 調査位置図	5	第24図 調査区位置図 （本文 A～G 1 /3,500）	16
第2図 調査区位置図	7	第25図 石器出土状況図	17
第3図 E地区 古墳時代中期遺構面	7	第26図 石器出土状況	17
第4図 E地区 井戸4	7	第27図 古代期以前の遺構平面図	17
第5図 D－2地区下層 弥生時代中期遺構面	7	第28図 平成17年度調査地（1 /5,000）	18
第6図 D－2地区下層 穴穴住居址	7	第29図 主要調査区位置図	19
第7図 調査区位置図	8	第30図 F－1区第9遺構面（北東より）	20
第8図 D区第4面（西から）	8	第31図 流路529・土手状遺構524土層断面	20
第9図 調査地位置図（1 /26,700）	9	第32図 掘立柱建物検出状況（北から）	21
第10図 C・D区遺構全体図（1 /600）	9	第33図 平成17年度調査地（1 /5,000）	22
第11図 調査区全体図	10	第34図 仿製鏡出土状況図	23
第12図 木樅検出状況	10	第35図 17～2区（南側）全景（南より）	23
第13図 調査区位置図	11	第36図 17～2区（南側）全景（南より）	23
第14図 井戸内土器器羽釜出土状況 (南西から)	11	柱穴遺物出土状況	
第15図 集会所調査状況（南西から）	11	第37図 桑原遺跡調査位置図と周辺の遺跡	24
第16図 調査区位置図	12	第38図 C 3号墳平面図	25
第17図 確認調査区焼土出土状況（西から）	12	第39図 A 3号墳と陶棺	25
第18図 調査区全体図（上が北）	13	第40図 調査区位置図（上が北）	26
第19図 18G遺構図	14	第41図 野端遺跡位置図	27
第20図 調査区位置図	15	第42図 調査区（3・4区）遺構面写真	27
第21図 3区全景	15	第43図 調査区（5区）断面包含層の状況	27
第22図 調査区位置図	16	第44図 円筒棺検出状況	28
第23図 ピット検出状況	16	第45図 トレンチ位置図	28
		第46図 出土地輪	28

## 表 目 次

第1表 原因別調査種別表	1
第2表 地域別調査面積・件数一覧表	1
第3表 平成17年度調査箇所一覧（1）	3
第4表 平成17年度調査箇所一覧（2）	4

## グ ラ フ

グラフ 1 原因別調査面積の推移	2
グラフ 2 地域別調査面積の推移	2

# 平成17年度における埋蔵文化財調査の概況

## 1. 調査面積と件数

平成17年度に実施した埋蔵文化財調査は79件、約58,000m<sup>2</sup>であった。内訳は発掘調査が31件、確認調査が15件、試掘調査が17件、工事立会が15件、分布調査が1件であった。確認調査15件のうち6件、試掘調査17件のうち1件で発掘調査が必要と判断された。面積・件数とも16年度に比べ増加している。

調査原因別にみると、住宅が最大で15,453m<sup>2</sup>、ついで道路が12,712m<sup>2</sup>、農林が9,068m<sup>2</sup>、河川が9,063m<sup>2</sup>で、この4事業で大部分を占める。地域別では、北河内が20,923m<sup>2</sup>で最も多く、ついで南河内・三島・泉北・泉南の順となり、豊能・中河内・大阪市は1,000m<sup>2</sup>に満たない。

年度ごとの変化を見ると、調査面積は増加し続けている。調査原因では、年度ごとの変動はあるが、住宅・農林・道路・下水の占める割合が高い。住宅は10年度をピークに減少傾向にあったが、15年度から増加に転じている。農林は場整備の終息に伴い、15年度から減少に転じている。道路は11年度に急減したが15年度に回復した。下水は13年度に急増したが、これは諸星北遺跡の調査が本格的に始まったからである。河川は16年度に急増したが、これは、桑原遺跡(安威川ダム)の調査が本格的に始まったからである。

地域別でも年度ごとの変動はあるが、泉北・南河内・北河内・三島の占める割合が高い。泉南は、15年度以降減少し続けている。

## 2. 主要な調査

### 農地地域

能勢町野端遺跡は、歩道設置に伴う調査で、奈良・平安時代の集落跡が検出され、製塙土器などが出土した。他には、豊中市蟹池西遺跡で確認調査を1件実施した。

### 三島地域

島本町桜井駅跡は、道路拡幅に伴う調査で、古墳時代前期の溝や中世の溝・土坑を検出し、遺跡範囲が拡大した。

茨木市桑原遺跡は、安威川ダム建設事業に伴って、昨年度から調査を行っている。今年度は、中世の建物跡・耕作痕を検出し、その下層から古墳時代後期～飛鳥時代の群集墳を24基以上も検出した。

茨木市安威城跡は、道路拡幅に伴う調査で、平安時代の掘立柱建物を検出した。古墳時代前期の上坑から、小型の青銅鏡が出土した。

茨木市鶴川遺跡は、道路拡幅に伴う調査で、調査区北側では、鶴川の旧流路を確認し、南側では、自然堤防上に中世の集落を検出した。

柄津市千里丘遺跡群は、道路拡幅に伴う調査で、绳文時代の石器集積遺構を検出した。

### 北河内地域

枚方市禁野本町遺跡は、府営住宅の建替えに伴って、昨年度から引き続き調査が行われている。今年度は、調査区の東・西側で谷地形を確認し、古墳時代初頭の堅穴住居を検出した。

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
	面積 面積 件数									
住 宅	10,696	15 16,304	10 26,271	21 23,590	15 19,623	14 11,340	11 7,905	10 12,522	19 13,617	17 15,453
農 林	11,539	10 15,482	21 15,026	21 17,817	18 12,942	17 8,147	12 12,441	7 10,308	6 9,068	9
道 路	8,870	16 14,074	15 9,590	19 4,159	17 3,504	14 1,518	18 4,256	20 11,008	21 11,423	18 12,712
下 水	1,948	7 294	10 4,355	9 4,149	6 5,066	9 22,698	14 16,846	12 13,017	6 13,150	7 8,174
河 川	1,738	9 2,351	9 1,252	6 841	7 530	3 1,389	6 146	4 1,598	4 5,204	5 9,063
施 工	1,844	7 1,680	2 750	1 8	1 425	3 526	4 8	1 1,054	7 144	9 809
その他の	207	7 3,946	9 685	9 2,046	9 9,220	9 2,000	6 1,199	6 745	6 246	10 2,793
合 計	36,842	76 54,131	65 57,783	86 44,035	72 52,185	70 54,721	74 38,507	65 52,385	70 54,292	72 58,072

\* 面積はm<sup>2</sup>である

第1表 原因別調査種別表

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
	面積 面積 件数									
大阪西	70	6 143	3 296	6 572	4 0 0	1,880	2 1,304	3 258	5 238	6 245
泉 南	9,882	14 2,901	17 5,206	20 8,638	19 9,810	12 5,723	17 450	5 8,971	8 4,782	11 1,417
泉 北	6,760	7 15,359	8 5,922	12 3,531	6 6,240	8 844	6 5,043	10 3,897	9 7,861	16 7,357
南河内	2,692	8 20,144	8 26,178	19 9,324	18 11,450	19 7,747	16 9,381	18 14,250	14 8,388	12 16,433
中河内	2,099	14 6,676	11 1,205	8 6,665	8 8,768	12 3,385	15 949	14 3,319	13 887	9 50
北河内	4,664	11 3,738	9 7,948	10 10,396	5 4,978	10 16,263	4 17,664	4 15,733	10 18,096	4 20,923
三 島	2,163	4 1,523	7 5,779	6 4,863	7 10,629	8 6,572	9 2,175	8 5,957	11 14,060	8 11,287
農 林	8,513	12 3,647	2 5,249	5 6,026	5 310	1 317	5 1,541	3 0 0	12 1 360	2
合 計	36,843	76 54,131	65 57,783	86 44,035	72 52,185	70 54,721	74 38,507	65 52,385	70 54,292	72 58,072

\* 面積はm<sup>2</sup>である

第2表 地域別調査面積・件数一覧表

四條畷市部屋北遺跡は下水処理施設に伴う大規模調査である。今年度は、昨年度からの続きで、E地区の調査を行っている。古墳時代中～後期の竪穴住居・掘立柱建物跡・大溝などの遺構を数多く検出した。井戸2基には、大型船の船底材を断ち割って井戸枠に転用していた。多種多様な遺物も大量に出土し、陶質土器や非常に保存状況のよい鉄製品・木製品があった。鹿角を装着したままのヒョウ骨の出土は、国内初である。

#### 中河内地域

水道工事や交通安全施設整備に伴う小規模な発掘調査や工事立会・確認調査を11件行った。

#### 南河内地域

松原市堀遺跡は、道路新設に伴う調査で、中世の水田を検出し、その下層から奈良時代の轍や人・牛の足跡を検出した。

松原市新堂遺跡は、下水処理施設に伴う調査で、绳文時代晩期の焼土塊を検出し、流路から弥生時代後期・古墳時代前期の上器が出土した。

羽曳野市陵東遺跡は、道路新設に伴う調査で、古墳周溝の可能性がある溝や小型円筒埴輪3本を使用した埴輪棺を検出した。

河南町平石遺跡は、ほ場整備工事に伴う調査で、平安時代後期の建物跡を検出し、古墳時代前期(布留式)・中期の須恵器が出土した。

#### 泉北地域

堺市鳳東町4丁遺跡は、府庁改築工事に伴う調査で、奈良時代の大溝や掘立柱建物、柵列を検出し、長さ3mの木製樋管や绳文時代後期～晩期前半の土器、石器が出土した。

堺市陶器遺跡・陶器千塚・陶器南遺跡は平成3年

度以来、ほ場整備工事に伴って調査を統けている。今年度の調査では、古墳時代後期の古墳周溝や飛鳥時代の溝、鎌倉時代の屋敷地を検出した。

堺市余部日置莊遺跡は、道路新設に伴う調査で、平安時代後期から鎌倉時代の鋳造工房を伴う屋敷地や条里溝を検出した。鋳造工房には、2カ所の溶解坑・鉄滓廃棄坑、炉壁廃棄坑などがあった。

和泉市府中遺跡は、道路拡幅に伴う調査で、弥生時代中期の方形周溝墓を2基検出した。

#### 泉南地域

岸和田市下池田遺跡は、府営住宅の建替えに伴う調査で、弥生時代の土坑、鎌倉時代の井戸、南北朝時代の落ち込みを検出し、瓦器や瓦が出土した。

#### 大阪市域

昨年度から継続の加美遺跡の小規模な発掘調査と諏訪遺跡の確認調査を行った。

#### 3. 遺物整理事業

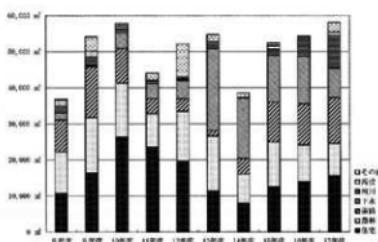
総持寺遺跡・福井遺跡・新上小阪遺跡・吉井遺跡・寺田遺跡・大町遺跡・下池田遺跡・平尾遺跡・萱振遺跡・中畠遺跡・高校出土遺物整理の11件の遺物整理事業を行った。福井遺跡II・新上小阪遺跡・吉井遺跡・萱振遺跡IIの報告書を刊行した。残りについては18年度以降も整理作業を統けていく予定である。

また、雁屋遺跡・大堀遺跡・新堂遺跡の報告書を刊行し、中畠遺跡II・千里丘遺跡群・安威遺跡・安威城跡・桑原遺跡・萬屋北遺跡III・IV・V・加納古墳群・平石古墳群V・陶器千塚・陶器遺跡IIの概要を刊行した。

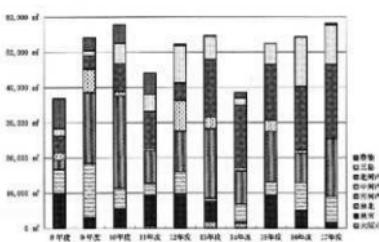
#### 4. 現地説明会

萬屋北遺跡と余部日置莊遺跡で、現地説明会を開催した。

グラフ1 原因別調査面積の推移



グラフ2 地域別調査面積の推移

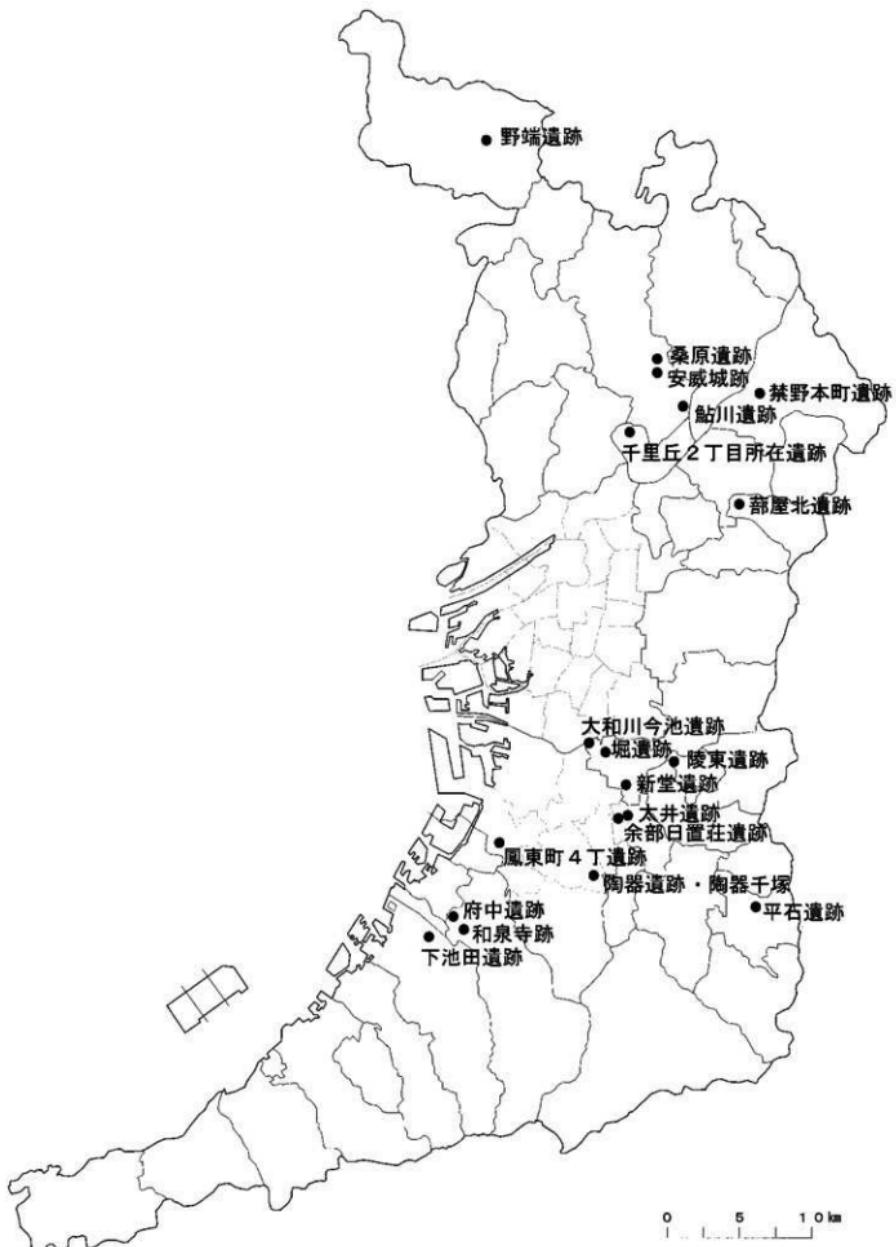


調査番号	地名	所在地	種別	調査開始	調査終了	位置街路	相場番号	事業団	事業名
05001	郡上北瀬野E	四日市市御堂・村	発掘	16年度から継続	平成18年1月20日	3,140 m <sup>2</sup>	下水道課	郡上川流域下水道事業 ならびに水道施設センター	
05002	島原道路	茨木市桑原	発掘	16年度から継続	平成17年5月20日	5,160 m <sup>2</sup>	一橋 河川室 ダム付防護課	安威川ダム設設事業	
05003	堀道跡	松原市天美南6丁目	発掘	16年度から継続	平成17年7月25日	2,496 m <sup>2</sup>	排水	交通道路監理室 堀道跡	都市計画道路堀川大通整備事業
05004	加茂道路	大阪市守口区加茂東6丁目	発掘	16年度から継続	平成17年4月28日	240 m <sup>2</sup>	雨水	公園課	久宝寺緑道内構造強化事業
05005	北島道路	東大阪市若草町8-25	立会	平成17年4月18日	平成17年5月24日	-	一橋 水道部更賀 水道事業所	松岡ポンプ場入管构造工事	
05006	余部日置丘道路	堺市美原区北会部	発掘	平成17年7月14日	平成18年3月24日	4,623 m <sup>2</sup>	開拓	交通道路監理室 道路整備課	主要地方道大坂茨山道路改良事業
05007	福徳中街道路	枚方市東毛利町	発掘	平成17年5月16日	18年度に継続	11,056 m <sup>2</sup>	横田	住宅経営室 住宅整備課	府営牧友寮改修住宅建替え
05008	鶴見野原ノ下道路	貝塚市境本	発掘	平成17年5月17日	平成17年6月30日	354 m <sup>2</sup>	二木	住宅経営室 住宅整備課	府営芦原寮本第2住宅整替え
05009	鳥居・福多寺道路	八尾市福原町7丁目	立会	平成17年5月30日	平成17年6月2日	-	一橋 水道部新井 水道事業所	配水管布設(上工連接管八尾北分岐)	
05010	土井・弓ヶ瀬	藤井寺市舟井町	発掘	平成17年5月30日	平成17年10月31日	600 m <sup>2</sup>	開拓 課	教育委員会 施設課	下水道敷切替工事
05011	三宅西4丁目道路	松原市三宅西4丁目	建設	平成17年6月6日	平成17年6月10日	16 m <sup>2</sup>	春季	交通道路監理室 交通安全対策課	府営大坂堀川寮整備事業点改換工事
05012	龍町4丁目道路	守口市黒東町	発掘	平成17年6月6日	平成18年1月31日	2,284 m <sup>2</sup>	三木	府警施設課	大坂府警察官舍警衛官舍改修工事
05013	道跡外	岸和田市南山町	試験	平成17年6月10日	平成17年6月10日	180 m <sup>2</sup>	雨水	交通道路監理室 交通安全対策課	一府道三川四山整理事業第
05014	下池田道路	岸和田市下池田町3丁目	発掘	平成17年6月20日	平成17年6月2日	567 m <sup>2</sup>	西口	住宅整備課	奈良瀬谷下池田治田住宅替え
05015	新金道路	松原市新金	建設	平成17年6月13日	平成17年9月2日	80 m <sup>2</sup>	雨水	下水道課	西畠川右岸と水引川接続工事
05016	藤井本町道路	枚方市若槻本町	発掘	平成17年6月9日	平成17年11月25日	3,400 m <sup>2</sup>	共西	住宅経営室 住宅整備課	府営枚方住宅裡替え
05017	鷲谷道路・鷲谷千坂	堺市鷲谷北	発掘	平成17年5月20日	平成18年2月17日	3,117 m <sup>2</sup>	上林	農政部 農業課	府営集落高架橋整備事業「鷲谷北地区」
05018	上弓山道路	交野市私鉄西4~5丁目	確認	平成17年3月15日	平成17年4月22日	200 m <sup>2</sup>	農	交通道路監理室 道路整備課	一般国道16号(狭山市御前山延長枚方大橋田植、矢川の井筒形橋)道路改修事業
05019	田井中瀬跡	八尾市田井中2丁目	確認	平成17年7月11日	平成17年7月11日	10 m <sup>2</sup>	一橋	交通道路監理室 交通安全対策課	八尾明寺前交差点安全施設等整備事業
05020	大和川今池道路	松原市天美西	発掘	平成17年6月23日	平成18年3月17日	1,814 m <sup>2</sup>	松本	下水道課	今池地区場設設
05021	太井道路	守口市美根町北余部	発掘	平成17年7月12日	平成18年1月31日	160 m <sup>2</sup>	開拓 課	教育委員会 施設課	下水道敷切替工事
05022	宝池西道路	豊中市寶池西	確認	平成17年7月5日	平成17年7月6日	10 m <sup>2</sup>	辻本	下水道課	猪川城下池下水道空港跡駆除整備工事
05023	道跡外(大堀跡跡)	守屋川市御宇	試験	平成17年7月7日	平成17年9月3日	10 m <sup>2</sup>	辻本	交通道路監理室 道路整備課	郡中財源道路御宇原川廻路改良事業
05024	千里丘2丁目所南溝	津原市千里丘	発掘	平成17年7月21日	平成17年10月21日	200 m <sup>2</sup>	一橋 小川	交通道路監理室 道路整備課	郡中財源道路千里丘2丁目所溝跡改修事業
05025	道跡外(桜井松井跡跡)	嘉手川市桜井1丁目	試験	平成17年7月13日	平成17年7月13日	100 m <sup>2</sup>	一橋	交通道路監理室 道路整備課	一府道修井駅跡自歩道整備事業
05026	大堀道跡	守屋川市大堀	発掘	平成17年7月19日	平成17年7月25日	34 m <sup>2</sup>	春木	交通道路監理室 交通安全対策課	守屋川大堀跡駆除事業
05027	舟中瀬跡	和泉市舟中町	発掘	平成17年7月14日	平成17年9月16日	155 m <sup>2</sup>	雨水	交通道路監理室 交通安全対策課	和泉市舟中瀬和泉中央駆除事業
05028	平石道路	河南町平石	発掘	平成17年8月10日	平成18年3月24日	4,651 m <sup>2</sup>	松本	農政部 農業課	丹波中山間地域総合整備事業「南河内ご当地農園」
05029	道跡外	茨木市大池1丁目12	試験	平成17年7月29日	平成17年7月29日	24 m <sup>2</sup>	松本	住宅供給公社 社	大和守田住宅供給公社茨木団地整備替え
05030	郡上北瀬野F	四日市市御堂・村	発掘	平成17年9月1日	15年度に継続	2,000 m <sup>2</sup>	雨水	下水道課	なわて水堀保全センター
05031	新金道路	松原市新金	発掘	平成17年8月19日	平成17年9月9日	50 m <sup>2</sup>	地村	下水道課	西畠川右岸雨水沟斜壁復旧
05032	堀道跡(その2)	松原市天美南5丁目	発掘	平成17年9月1日	平成18年3月20日	1,014 m <sup>2</sup>	地村	交通道路監理室 道路整備課	市町野瀬路堀道大堀跡整備事業
05033	道跡外(風生堂跡跡)	東大阪市下小瀬	立会	平成17年8月23日	平成17年8月26日	-	一橋	水道部更新 水道事業所	東大阪水道事業所庁舎改修工事
05034	久宝寺・御堂道路	八尾市御堂北の町2丁目	立会	平成17年8月23日	平成17年9月21日	-	一橋	交通道路監理室 交通安全対策課	都市計画道路久宝寺大通整備事業
05035	堀道跡	大東市平野町1丁目	試験	平成17年8月17日	平成17年8月19日	29 m <sup>2</sup>	辻本	危機管理室 洞門救援隊	雨田半井救援
05036	堀道跡	大東市城東区舞鶴3丁目	確認	平成17年8月22日	平成17年8月22日	5 m <sup>2</sup>	辻本	高校改革課	成城高校舎建替え
05037	舟中瀬跡(その2)	和泉市把子町	発掘	平成17年8月24日	平成17年10月12日	140 m <sup>2</sup>	春木	交通道路監理室 道路整備課	郡中財源道路和泉中央駆除事業
05038	御堂南道路	守屋川市北	発掘	平成17年11月18日	平成18年3月24日	1,246 m <sup>2</sup>	横田	農政部 農業課	府営集落高架橋整備事業「御堂北地区」
05039	久宝寺道路	八尾市久宝寺	確認	平成17年8月22日	平成17年8月23日	10 m <sup>2</sup>	一橋	交通道路監理室 交通安全対策課	大坂港八尾港交通安全施設整備事業
05040	下池田道路(その2)	岸和田市下池田町3丁目	発掘	平成17年9月9日	平成17年9月9日	22 m <sup>2</sup>	西口	住宅整備課	近岸海岸和下池田治田住宅替え
05041	和泉寺跡	和泉市皆生町	確認	平成17年10月24日	平成17年11月2日	160 m <sup>2</sup>	雨水	交通道路監理室 交通安全対策課	郡中財源道路大和川舟橋駆除事業

第3表 平成17年度調査箇所一覧表(1)

監査番号	地名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事務課	事務名
05042	通勤外(高蔵寺)	埼玉市原田150	試験	平成17年9月21日	平成17年9月22日	26 m <sup>2</sup>	国C3	軟弱地盤会員 施設課	下水道施設施工事
05043	玄永道路	交野市東治	確認	平成17年10月25日	平成17年10月31日	50 m <sup>2</sup>	辻木	交通安全課 道路施設課	主要地方道右方大和高田線(都市計画道路 路村野谷新守谷)道路改良事業
05044	安成城跡	茨木市東安成1丁目	実測	平成17年11月4日	平成18年3月1日	350 m <sup>2</sup>	農	交通安全課 道路施設課	主要地方道木鳥田街道整備事業
05045	疊筋道路(その2)	茨木市立原	実測	平成17年11月4日	18年2月に繰延	3,883 m <sup>2</sup>	小川	河川室 ダム防護課	安福川ダム建設事業
05046	鶴川道路	茨木市鶴川	実測	平成17年11月2日	平成18年3月31日	1,470 m <sup>2</sup>	井吉	交通安全課 施設課	都市計画道路田口塔塔壁事業
05047	西保井通路	茨木市西保井2丁目	実測	平成17年11月21日	平成17年11月28日	80 m <sup>2</sup>	一瀬	交通安全課 道路施設課	一般道路合併茨木道路改修事業
05048	金剛道路	岸和田金剛町	立会	平成17年11月28日	平成17年11月28日	-	西口	農政室 整備課	金剛地区生土治改修工事
05049	通勤外(真正庄右衛)	岸和田市土生	試験	平成17年11月28日	平成17年12月2日	35 m <sup>2</sup>	難津	農政室 整備課	府管ため池整備事業
05050	狭田郡多留連跡	富田市多留本郷	確認	平成17年12月5日	平成17年12月5日	6 m <sup>2</sup>	辻木	交通安全課 交通施設課	八尾牧交級交通安全施設等整備事業
05051	高井田排水	柏原市大井田並800	立会	平成17年12月12日	平成17年12月12日	-	一瀬	交通安全課 施設課	堺泉佐文支線排水設置大綱引立候補箇第8 中審
05052	兼井第1敷布地	羽曳野市兼井	試験	平成17年11月24日	平成17年11月24日	14 m <sup>2</sup>	稻本	農政室 整備課	新宮津水防除事業
05053	通勤外	羽曳野市兼井	試験	平成17年12月14日	平成17年12月14日	5 m <sup>2</sup>	稻本	農政室 整備課	府管ため池防除事業
05054	星丘通路	枚方市星丘台	確認	平成17年12月19日	平成17年12月19日	10 m <sup>2</sup>	辻木	水道課 雨水水場	村野序水場運営・雨水池施設工事
05055	大東古治群	寝屋川市打上	確認	平成17年12月21日	平成17年12月21日	15 m <sup>2</sup>	辻木	交通安全課 交通施設課	都市計画道路打上被
05056	長尾道路	枚方市長尾元町	確認	平成18年1月6日	平成18年1月6日	5 m <sup>2</sup>	辻木	交通安全課 交通施設課	一般道路杉田口整修
05057	下田通跡	岸和田市下田池田町	立会	平成17年9月6日	平成17年9月6日	-	西口	住宅課 施設課	府管岸和田下田住宅整修工
05058	西大井通路	寝屋川市西大井	実測	平成17年12月1日	平成17年12月25日	80 m <sup>2</sup>	間	下水道課	大井越塙坂井湖設
05059	寝屋北道跡	四條畠市鹿屋・砂	実測	平成18年1月18日	平成18年2月22日	1,000 m <sup>2</sup>	岩隈	下水道課	なわて水保促保センター
05060	野庭通跡	豊能郡稻美町山内	実測	平成18年1月16日	平成18年2月28日	350 m <sup>2</sup>	辻木	交通安全課 交通施設課	一般道路同前野庭山内歩道設置
05061	通勤外	東大阪市柏原町大久保	試験	平成18年1月17日	平成18年1月24日	220 m <sup>2</sup>	国C3	交通安全課 施設課	都市計画道路大坂原町柏原町通路改良 事業
05062	通勤外	東大阪市柏原町大久保	立会	平成18年1月24日	平成18年1月24日	-	西口	交通安全課 交通施設課	一般国道(国)170号歩道設置工事
05063	素戔嗚・太田川通跡	八尾市西高殿1丁目	立会	平成18年2月3日	平成18年2月3日	-	一瀬	水道課 施設課	新宮津設置工事
05064	通勤外(瀬生中塩寺)	箕面市駒生中	立会	平成17年12月21日	平成17年12月21日	-	国C3	農政室 整備課	府管ため池整備事業
05065	丸山・平塚古墳	箕面市平塚古墳2丁目 羽曳野市高塚8丁目	確認	平成18年2月20日	平成18年3月14日	224 m <sup>2</sup>	三木	交通安全課 施設課	都市計画道路八尾尾田林線
05066	池上曾我通跡	和泉市池上町	試験	平成18年1月20日	平成18年1月20日	1 m <sup>2</sup>	西口	交通安全課 交通施設課	主要地方道大津美濃線
05067	疊筋外	泉佐野市日根野1093	実測	平成18年1月31日	平成18年1月31日	2 m <sup>2</sup>	西口	交通安全課 交通施設課	日根野宮崎疊筋歩道設置
05068	通勤外	貝塚市木根	実測	平成18年2月3日	平成18年2月3日	2 m <sup>2</sup>	西口	交通安全課 交通施設課	一般国道(国)170号歩道設置
05069	原尻通跡	四條畠市原尻	立会	平成18年2月23日	平成18年3月20日	-	岩隈	教育委員会 施設課	国際化高校建設移転
05070	猪頭通跡	貝塚市猪頭・猪頭	立会	平成18年3月3日	平成18年3月3日	-	上林	交通安全課 交通施設課	一般府道阪南幣多歩道整備工事
05071	通勤外	泉佐野市鶴原	実測	平成18年3月17日	平成18年3月17日	5 m <sup>2</sup>	上林	交通安全課 交通施設課	一般府道泉佐野鶴原歩道整備工事
05072	南巣里跡群	和泉市鶴見町	分査 実測	平成18年3月9日	平成18年3月9日	-	西口他	環境部林木 樹木管理課	街頭樹木樹木整備
05073	大森通跡	寝屋川市太秦高塚町	立会	平成18年3月16日	平成18年3月16日	-	岩隈	水道課 施設課	水道管網修理
05074	弓削通跡	八尾市志紀町4丁目	免査	平成18年3月20日	平成18年3月31日	30 m <sup>2</sup>	一瀬	水道課 施設課	樹木管理用人詰め工事
05075	久宝寺通跡	八尾市神武町	立会	平成18年3月20日	平成18年3月20日	-	一瀬	下水道課	屯里水渠施設全セント・溢水管整備工事
05076	東郷通跡	八尾市本町1丁目他	立会	平成18年3月27日	平成18年3月27日	-	一瀬	交通安全課 施設課	主要地方道大坂尾八尾鶴仙電線共用消音 施設工事
05077	直跡外(豊美丘高校)	堺市西野51	試験	平成17年7月19日	平成17年8月2日	10 m <sup>2</sup>	西口	教育委員会 施設課	下水道施設整修工事
05078	直跡外(名吉古風橋板)	堺市土塙町2377-5	実測	平成17年7月22日	平成17年7月22日	6 m <sup>2</sup>	西口	教育委員会 施設課	下水道施設整修工事
05079	直跡外	堺市新金岡町2丁5番	試験	平成17年6月30日	平成17年7月4日	200 m <sup>2</sup>	藤澤	府管密閉回収車整備工事	大阪府管密閉回収車整備工事

第4表 平成17年度調査箇所一覧表(2)



第1図 調査位置図

# いとみやまち 部屋北遺跡（05001）

- (1) 四條畷市砂・蒲屋  
(2) なわて水環境保全センター  
(3) 岩瀬 透

## はじめに

なわて水環境保全センター建設に先立って平成13年度より実施されている蒲屋北遺跡の発掘調査は、平成16年度までに水処理施設（A・B・C）地区、ポンプ棟・沈砂池（D）地区が終了しているが、平成17年度には平成17年1月に着手した砂ろ過施設（E）地区3,140m<sup>2</sup>が平成18年1月に、平成18年1月に着手した沈砂池（D-2）地区下層の調査が平成18年2月に終了した。現在は管理・送風機（F）地区的調査を実施している。

## E地区の調査概要

E地区では9面の遺構面を確認した。

調査区の東半部を北東から南北方向に延びる里道がみられたが、これはB地区でも平安時代後期以降の面で確認されている八丁堤道で、里道は堀溝地区へ続いている。調査前には里道の北西側に牛の飼育施設が存在していたが、この施設によって本来は存在していたはずの近世以降の耕作地は削平され、消滅したものと思われる。

第1面、第2面では中世の耕作面、第3面から第7面では平安時代の耕作面が確認された。第4面以上の面には調査区内に八丁堤道が存在するが、第4面では讃良郡条里の地割りに沿った畦畔がみられ、出土した遺物から11世紀に比定される。これは讃良郡における条里制施行開始の時期と合致する。

第6面と第7面も耕作地を確認したが、これらの面では条里の地割り方向と異なる畦畔をもつ小区画水田が調査区の北半部で検出された。出土遺物から第7面が9世紀、第6面が10世紀に比定できる。また、第7面では調査区の南東端部付近で溝、土坑などの、耕作地以外の土地利用を窺わせる遺構が検出されており、A類黒色土器、上師器などが出土している。

第8面では調査区南東端部付近で竪穴住居、掘立柱建物、溝など集落を構成する遺構が検出された。これらには6世紀末と8世紀のものがある。

第9面が古墳時代中期から後期の遺構面で、5世紀初頭から6世紀前半に比定される遺構が検出された。

調査区の中央部を緩く弧を描きながら南北に継続する、幅10mから20mの大溝が検出された。この大溝は集落の西端を限定するものと思われる。集落外

にあたる西肩部はT.P.±0m付近、集落内の東肩部はT.P.+1.3m付近で、集落は周辺より1.3m以上高い位置に展開していた。

溝の埋土は概ね三層に分層でき、各層から土器、木製品、鉄製品などの、5世紀初頭から5世紀末の遺物が大量に出土した。特に注目されるのは鉄製品で、鎌、刀子、鎌、鍔などがあり、鎌による劣化が少なく本来の形状が明瞭に把握できるものが多い。

大溝の東側には竪穴住居址9棟、掘立柱建物跡11棟、井戸4基などからなる集落域が展開する。井戸が4基検出されたが、そのうちの2基は掘方の一部が重複していた。ともに準構造船の船底材を転用した井戸枠がみられ、一方が5世紀前半、他方は5世紀後半のものと考えられた。

## D-2地区下層の調査概要

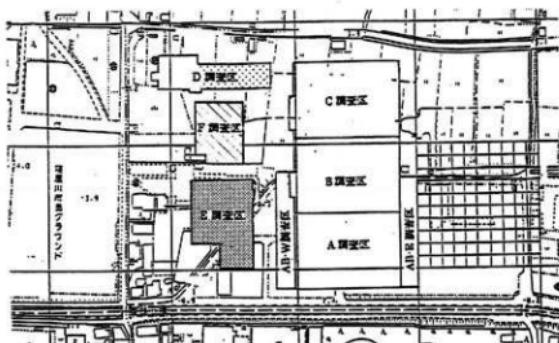
D地区では、調査終了時に下層の土層観察を目的として断ち割り調査を実施したが、その際に東半部の沈砂池地区にあるD-2地区の、T.P.-0.3m付近の面で遺構が確認されたので、安全対策を施した上でD-2地区のみ再度調査することとした。

その結果、D-2地区の東半部で方形周溝墓1基、円形の竪穴住居址1基、掘立柱建物跡1棟をはじめ、溝、土坑、ピットなどからなる集落跡が認められ、これらの遺構から弥生式土器、石器、木器などが出土した。出土した土器からこれらの遺構は弥生時代中期前半のものと考えられた。

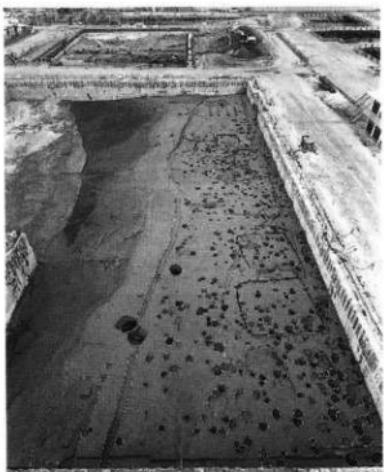
## まとめ

従前の調査成果から、蒲屋北遺跡の古墳時代集落は百済から渡來した馬飼い集団が営んだ、いわゆる「河内の牧」の一部にあたるとされてきたが、E地区の調査ではこれを追認するとともに、集落の形成時期が5世紀初頭からという結果が得られ、これまで5世紀中葉と考えられてきた河内の牧の成立の時期が、少なくとも5世紀前半まで遡る可能性があることがわかった。

古墳時代前期以前の様相については、これまでの調査では遺物が散発的に出土してはいるが、遺構は確認されなかった。しかし、今回D-2地区下層の調査で、小規模ではあるが東半部で調査区の北東側へ広がりを窺わせる弥生時代中期の集落が検出されたことで、古墳時代前期以前の様相も徐々に明らかになってきた。



第2図 調査区位置図



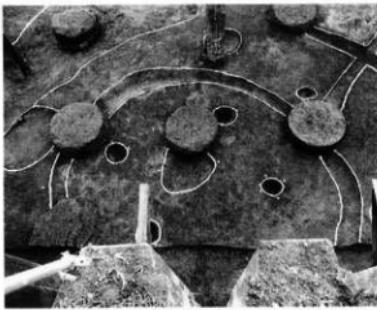
第3図 E地区 古墳時代中期造構面



第4図 E地区 井戸4



第5図 D-2地区下層 弥生時代中期造構面



第6図 D-2地区下層 積穴住居址

## ほり 堀遺跡 (05003・05032)

- (1) 松原市天美南5丁目地内
- (2) 都市計画道路堺港大堀線整備事業
- (3) 地村邦夫

### はじめに

昨年度に引き続き、堺港大堀線整備事業に伴う調査を実施した。調査区は東西二ヶ所あり、東側の調査区をD区（調査番号05003）、西側の調査区をC区（調査番号05032）としている。

### 調査の結果

試掘調査の結果に基づき、D区では地表面下0.8m前後、盛土が厚いC区では1.2~1.4m前後を重機で掘削し、以下を人力で掘削した。各層の上面で精査を行い、遺構、遺物の検出に努めた結果、遺構面4面を確認した。

第1面 本面は近世の遺構面である。遺構面のレベルはおおよそT.P.+12.4~12.8mである。主な遺構は井戸、土坑、溝である。井戸はすべて近世末~近代のものであり、近世の用水路と考えられる溝を切っていることから、調査区付近が集落域となるのは近世末以降のことと推測された。

第2面 本面は中世の水田面である。遺構面のレベルはおおよそT.P.+12.1~12.4mである。C区では畦畔の残りがよく、当時の条里地割りを復元する手がかりになりそうである。遺構面直上および水田耕作土から出土した遺物には瓦器窓、土師器小皿の小片がある。いずれも小片だが、概ね12~13世紀代に収まると考えられる。

第3面 本面は平安時代と推測される水田面である。遺構面のレベルはおおよそT.P.+11.7~12.1mである。第2面に比べ畦畔の残りは良くなかった。出土遺物の大半は古墳時代後期~奈良時代のものであるが、第2、4面の時期を勘案すると木水田は平安時代に下る可能性が高い。

第4面 本面は奈良時代の遺構面である。遺構面のレベルはおおよそT.P.+11.4~12.0mである。道路状遺構、轍、足跡を検出した。道路状遺構の方向はN-62°-Eで、D区中央部からC区中央部にかけて検出している。轍の方向は南北方向で、並行する轍の間隔は1.45~1.5mであった。足跡は牛が多い。道路状遺構と轍、足跡は切り合った関係から轍、足跡の方が新しいことが判明している。遺物には古墳時代後期~奈良時代の土師器、須恵器小片がある。

### まとめ

今回の調査では遺構面4面を検出した。昨年度調査に引き続き、奈良時代に調査区周辺が開発された

ことを確認した他、条里水田が営まれ、近世には集落域が広がる様子を伺うことができた。



第7図 調査区位置図



第8図 D区第4面（西から）

## 余部日置莊遺跡 (05006)

- (1) 堺市美原町北余部地内
- (2) 府道大阪狹山線建設
- (3) 阿部幸一

調査は、道路建設工事に伴って平成15年度から継続して実施しているもので、阪和道と府道堺富田林線の間に2調査区（A、B地区）、昨年度の継きとなる阪和道北側も2調査区（C、D地区）の4調査区に分けて行なった。

### 遺構の概要

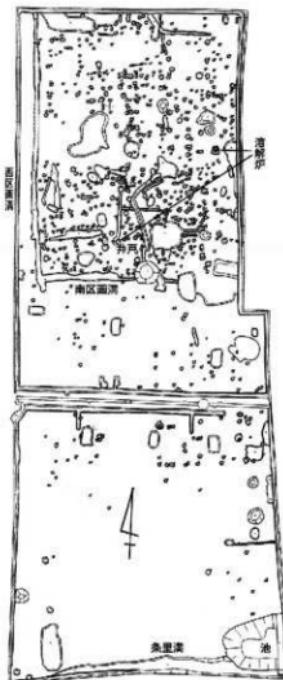
A、B調査区では耕作溝や幅の狭い溝、中世以前の蛇行する河道を検出した。隣接する15、16年度調査区の府道南側や阪和道の北側でも遺構は少なかった。荒蕪地であったと考えられる。

C、D地区では平安時代後期から室町時代前期頃までの溝で区画された屋敷地や、鉄・鍛造遺構、井戸、池跡等を検出している。

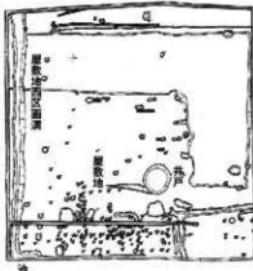
C地区 16年度の調査で、屋敷地の南区画溝、池や多数の柱穴を検出した。今年度の調査では、屋敷地南西端の池から北に延びる西区画溝、柱穴群や土坑、井戸等を検出した。屋敷地の北端を里道下で検出した溝とすると、屋敷地は南北約35m、東西30m以上の規模となる。

D調査区 南端で東西溝と池を検出した。溝は現里道とは方向が少し異なるが、中世の坪塙を画するものであろう。池は南北約5m、深さ1.2mを測る。中世後期の溜池であろう。里道の北約40m間は、地山が疊混粘質土で、建物跡はあるものの遺構密度は低い。また、C区屋敷地に続く西溝は確認できない。北部では西区画溝の継きと北区画溝、溶解炉跡2ヶ所、鉱滓や炉壁片を棄てた土坑、井戸、土師器皿が詰まった土坑、井戸、多数のピットを検出した。溶解炉の周辺では鋳造時に利用されたと思われる土坑

や鋳造祭祀に関わる土師器皿を埋納したピットを検出している。



第9図 調査区位置図 (1/26,700)



第10図 C・D区遺構全体図 (1/600)

## 鳳東町4丁遺跡(05012)

- (1) 堺市中区鳳東町地内
- (2) 堺南警察署庁舎建て替え
- (3) 三木 弘

本遺跡は、堺南警察署の建て替えに先立ち、平成16年度に試掘調査を実施した結果、新規発見した遺跡である。警察署敷地部分を遺跡範囲とし、「鳳東町4丁遺跡」と命名した。以下に記すように、発掘調査の成果は大きく、当該地周辺の歴史を捉える上で重要な遺跡であることが判明した。

調査前に斤舎の解体を行なったが、遺跡への影響を考慮し、基礎部分は除去しないまま残した。そのため建物基礎やその掘方により、遺構は寸断されていた。

機械掘削により60~140cmの盛土および攪乱を除去すると、中世整地土であるオリーブ灰色粘シルト、古代の整地土である灰黄色粘シルト、あるいは最終遺構検出面であるやや青味のある灰色粘土が現われる。中世整地土は調査区の北東半に広がっている。

本調査における最大の成果は、調査区の西辺を北流する大溝の発見である。上述のように建物基礎や攪乱に分断され、さらに西岸が調査区外にあるため全容を捉えることはできないが、断片的な状況を重ね合わせると、溝幅は6~8mと推定できる。深さは検出面から1.4mであるが、本来はさらに深いと考えられる。

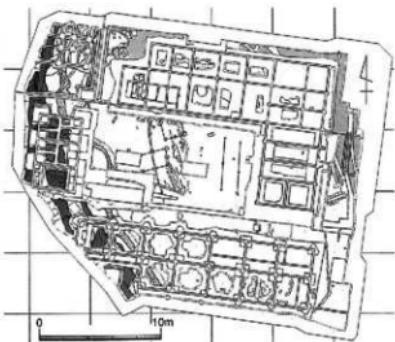
この大溝は北西方向から緩やかに北に向きを変えつつ北上している。この鴻曲形状は遺跡の西に位置する中位段丘の崖線と一致していて、崖線下の地形に沿って掘削されている。この大溝の上面で長さ3m、直径60cmの樋管を検出した。出土状況から、溝の埋没に伴って廃棄されたとみられる。

この大溝の東1~2m程に、幅1m、深さ20~40cmの溝が大溝とほぼ平行して北上し、調査区北半ではさらにその東に幅10cm、深さ10cm程の小溝が北上したのち調査区北辺付近で東方に屈曲していた。この小溝には、東に広がる水田域につながる通水路がある。つまり、大溝を幹線水路とし、平行する2条の溝に水を配しながら水田に供水したと考えられる。

出土遺物から、現時点では、大溝は奈良時代に開削され、平安時代後半に埋没したと考えている。このことから、本遺跡の南約2kmにある、行基による築成と伝えられている鶴田池との関係が留意される。このように鶴田池から大鳥方面にかけての古代における土地開発を解明する上で重要な手掛かりを得た。

溝や水田以外には、2×2間とみられる2棟の掘立柱建物や柵列なども発見された。掘立柱建物は、一部の柱穴が古代整地土下で検出されたことから、古墳時代に遡る可能性が高い。

また遺構検出面下の基盤層中において、縄文時代後期~晩期前半の土器と石器が出土した。石器には石鏃、刃器、磨石、石皿のほか、サヌカイトの剥片も多く、調査区周辺で石器製作が行なわれていたことを示唆する。



第11図 調査区全体図



第12図 木樋検出状況

## 下池田遺跡（05014・05040）

- (1) 岸和田市下池田町3丁目
- (2) 府営岸和田下池田住宅建替え
- (3) 大阪府教育委員会 西口陽一

### 1. 調査方法

平成16年度に続き、府営岸和田下池田住宅建替え工事に伴う発掘調査を実施した。本年度の調査区は、外周道路の延長63m部分（567m<sup>2</sup>）と集会所部分（22m<sup>2</sup>）である。地表下1.2mまでを機械・人力掘削し、記録保存の処置を施した。

### 2. 調査結果

(外周道路) 長さ63m幅9mの長方形の調査区である。厚さ40~60cmの新盛土の下に、旧の耕土層がある。調査区の南東寄りの部分では、幅12~13mにわたって、高台部分があり、その部分からは、古い時代の遺構が検出された。調査区の北西部および南東部分は、後世の田圃造成により、削平を受けていたらしく、削り残された遺構や新しい時期の遺構しか検出されなかった。

高台の上から検出された遺構には、埋土が黒褐色シルトの土坑が2基あった。南側の土坑4は不整形な楕円形土坑で、埋土中から弥生土器の細片1点が出土した。

調査区の南東部分からは、中世以降の落ち込みと井戸が各1基、検出された。落ち込みは、なだらかに径5m程の部分が半円形に深さ25cmほど落ち込んでいたもので、内部に瓦片や石が固まって出土した。南北朝時代の瓦質甕やすり鉢片も出土したことから、その時に、投棄されたものと判明した。井戸は、調査区の南西角に半分だけが検出されたもので、推定幅2.6m以上の方形・素振りのもので、埋土中から、多数の鎌倉時代後期の瓦器碗・土師器小皿・東播甕の他、断面に煤が付着した瓦片や長さ18cm厚さ5cmの紅縞片岩石材・檜製の曲物桶片なども出土した。土師器羽釜は、ほとんど完形になるもので、一括投棄されたものと考えられた。

(集会所) 長辺の長さ7.1m、短辺の長さ3.1m、幅2.2mのL字形の調査区である。厚さ1mの新盛土の下に旧の耕土層があつて、その下が即ち地山であった。地山直上に土器片が4点、鐵器(釘?)が1点出土したのみで、遺構は検出されなかった。地山直上には、灰色砂礫層が厚さ5~10cmほど堆積していた。時期不明の洪水砂層と考えられた。

### 3.まとめ

今回の調査によって、下池田遺跡のすぐ近くに、大火を受けた中世寺院の存在すること、中世に田園

造成がなされた可能性のあることなどが推定された。



第13図 調査区位置図



第14図 井戸内土器羽釜出土状況（南西から）



第15図 集会所調査状況（南西から）

## 新堂遺跡 (05015・05031)

- (1) 松原市新堂一丁目地内
- (2) 西除川右岸雨水B幹線下水管渠築造工事
- (3) 地村邦夫・藤澤真依

### はじめに

今回の調査は、西除川右岸雨水B幹線の下水管渠築造工事に先だって実施した。まず調査対象地である発進立坑隣接地で確認調査を実施したところ、弥生時代中期以前に遡る可能性がある焼土塊がまとまって出土したことから、発進立坑内の発掘調査を実施した。

### 確認調査の結果

確認調査では、地山層である黄褐色粘土層上面で焼土塊が出土した。地山層上面のレベルはT.P.+22.0m前後である。

焼土塊は地山面直上で長さ2.2m、幅0.6~0.7m程度の範囲にまとめて出土した。この場所に設置され、そのまま潰れたことを伺わせる出土状態であった。全体の形状は不明だが、径10cmほどの穴をあけた筒状の部位や木芯を入れて形成している部位など、特異な形状、構造が認められる。周囲の土層には炭片が多数含まれており、地山面にも火熱によると考えられる変色が見られたことから、火熱を受けた性格の遺物であることが想像された。

焼土塊の時期を示す遺物は出土しなかったが、上層より弥生時代中期の土器片が出土したことから、それを遡る可能性が考えられた。

### 発掘調査の結果

発掘調査では、確認調査結果に基づいて現地表面から1.1mを重機により掘削、以下の土層を人力で掘削し、都合4面を調査した。

第1面のレベルはT.P.+22.7m前後である。流路2条を検出した。1条は東西方向の流路で、埋土の下層から庄内~布留期の土師器片が少量出土した。もう1条は上層から掘り込まれた古代以降の流路である。本面の時期は古墳時代前期と考えられる。

第2面のレベルはT.P.+22.6m前後である。東西方向の流路1条を検出した。弥生土器片、サヌカイト製スクレイパー、剥片が出土した。本面の時期は弥生時代後期と考えられる。

第3面のレベルはT.P.+22.15m前後である。遺構・遺物とも検出されなかった。

第4面は地山面であり、レベルはT.P.+22.0m前後である。確認調査では多数の焼土塊が出土したが、本調査区内では遺構・遺物とも検出されなかった。

### まとめ

確認調査で出土した焼土塊については、木芯2点について炭素年代測定をおこない、BP2,774±23、BP2,868±23(暦年較正用年代)との結果を得た。これは調査の所見とも矛盾しないことから、第4面は縄文時代晚期に比定し、焼土塊は屋外炉の可能性を想定しておきたい。また第4面が縄文時代晚期とすると、第3面の年代は弥生時代前~中期に収まるものと考えられる。今回の調査は小規模なものではあったが、本遺跡の変遷の一端を伺うことができた。



第16図 調査区位図



第17図 確認調査区

焼土塊出土状況（西から）

## 禁野本町遺跡（05016）

- (1) 枚方市禁野本町地内
- (2) 府営枚方住宅建て替え
- (3) 井西貴子

### はじめに

本遺跡は、天野川右岸の枚方台地から舌状にはりだす台地の端突に位置する。調査区の北側を東方向に通る現道は、台地を切断して作られたものである。平成16年度から2カ年にわたって発掘調査が実施された。

### 調査成果

標高 T.P.32.8m

地形 台地上。地形は西・南側に落ちる。

基本層序 府営住宅整地土（約30cm）、旧耕土・床土（約25cm）は、調査区全体に堆積する。

- ① 包含層 第1層 層厚10cm。須恵器・土師器の小片出土。時期の詳細は不明。
- ② 包含層 第2層 層厚10~30cm。須恵器・土師器の小片出土。時期の詳細は不明。
- ③ 包含層 調査区の北端に堆積。

遺構 全体的に遺構面上面の削平が著しく、遺構の残存状態は非常に悪い。時期は、出土遺物、堆積土層、包含層の層序から判断した。遺構面は基本的に1面である。

弥生時代 溝（2条）。溝74（検出長2.2m）と86（検出長5.3m）は南北に直線で伸びる溝で、間を搅乱で切られるが、埋土の堆積状況、断面形状、出土遺物から同一の溝である可能性が高い。

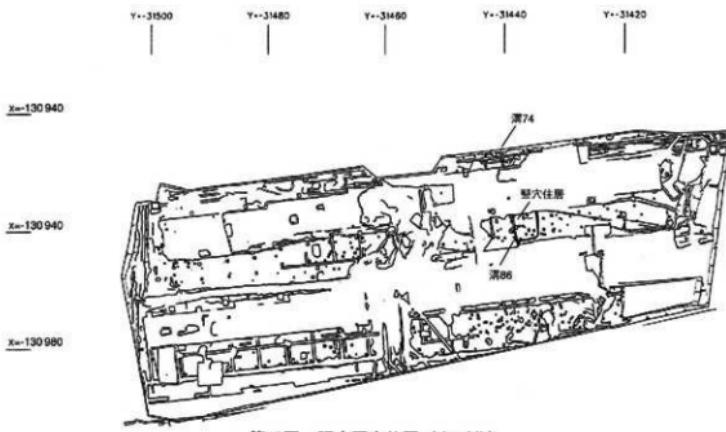
古墳時代 方形竪穴住居1基

上面を削平されているため竪穴壁が残っていない。標高32.4m。壁溝幅0.1~0.2mで部分的に2条に分かれれる。弥生時代の溝を切っている。主柱穴4基。直径0.3~0.4m、深さ0.2~0.3mの円形を呈する。遺物は出土しなかった。覆土から庄内並行期の土器の細片が出土。他に土坑・溝・小穴を検出。

平安時代 平成16年度調査では、平安時代に属する掘建柱建物を検出したが、今年度の調査では確認できなかった。

中世から近代 包含層及び小穴から中世から近代までの遺物が出土した。

包含層出土遺物 弥生時代中期から近代までの遺物が確認されたが、ほとんどの土器が細片であり詳細な時期を決めるのは難しい。出土量はコンテナーに2箱ほどである。



第18図 調査区全体図（上が北）

# 陶器遺跡・陶器千塚 (05017)

- (1) 堺市中区陶器北地内
- (2) 府営集落基盤整備事業「陶器北地区」
- (3) 上林史郎

## 1 はじめに

最終年度の調査となる陶器遺跡・陶器千塚の発掘調査対象地は、遺跡の北限の東西約300m、南北約200mと広い範囲にわたっていた。調査区も、水路などの切り盛りの関係で26ヶ所と多く、調査面積は3,264m<sup>2</sup>に達した。調査は、平成17年6月20日から開始され、平成18年2月17日にすべて完了した。

## 2 調査の成果

遺構では、6世紀末葉の方墳の周溝、住居のカマド、溝や、14世紀前葉の掘立柱建物を含む中世屋敷地の一角などが検出された。遺物では、遺構に伴って須恵器や土釜、瓦器、土師器などがまとまって出土している。特に、中世屋敷地では、方形に区画された大溝内で、建物や土坑、鉢物を铸造していたと考えられる炉跡などが検出されている。

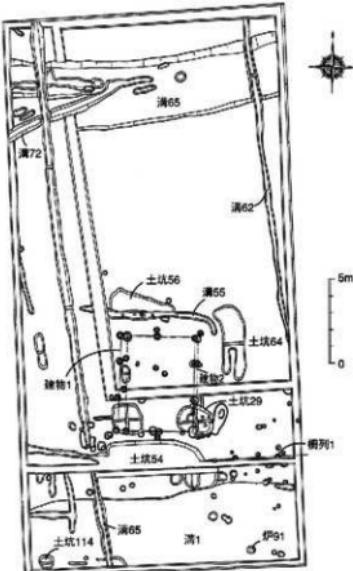
ここでは主要な遺構について述べておきたい。

**方墳の周溝**　調査対象地の西南端、2~4区で検出された南北方向の溝である。幅4.1m、長さ14m以上、深さ0.3mをはかる。中央に設定したあぜ断面をみると、上層が黄色系粘質土(0.2m)で、下層が暗灰色系粘質土(0.3m)になっている。下層からは、須恵器などが出土しており、方墳の周溝である可能性が高い。ただ、一日、北から真っ直ぐ続いてきた本溝が西に屈曲することや、南壁で同様な埋土をもつ別の溝が検出されていることから、もう一基別の方墳の存在が考えられることになった。二基の方墳の周溝は、切りあい関係が不明確で、溝を共有しているかのごとくである。これら二基の方墳の築造時期は、6世紀末葉と考えられる。

**竪穴式住居のカマド**　調査対象地中央やや西寄り、8区の中央付近では、地山が0.25mにわたって急に落ち込んでいる。その直上には長さ7m、厚さ0.15mにわたって灰色粘土が堆積していた。おそらく、地山が急に落ち込んだラインが方形の竪穴式住居の北側の肩に相当し、本遺構は住居の北辺中央に位置するカマドと考えられる。埋土には炭や灰、焼土ブロックなどが混じっていた。口頭部を打ち欠いた須恵器壺や面をもつ拳大の石が出土しており、カマドの支脚として利用されたのである。住居の規模は、灰色粘土が水平に堆積している範囲の一辺7mと考えられる。6世紀末葉の構築であろう。

**中世屋敷地**　調査対象地中央やや東寄り、18区では

中世屋敷地に相当する遺構・遺物が検出されている。建物1は、二間×三間の南北棟の建物で、その規模は東西4.5m、南北5.6mをはかり、面積は約25m<sup>2</sup>である。この建物は火事に遭ったようで、各柱痕には炭や灰が多く含まれていた。また、柱穴の中には、掘方内部に完形の土師器皿や瓦器碗を置いており、地鎮の痕跡と考えられる。建物1の廃絶後、程なくほぼ同規模の建物2が重なるように構築されている。溝055は建物1と建物2の北側を「つ」字状に区画する溝である。溝063は、東西方向の大溝で、検出長16m、上段幅4m、中段幅2.4m、下段幅1.2m、深さ0.5mをはかる。特徴的なのは、溝の外肩は一段で真っ直ぐに掘られているのにに対し、内側は緩やかに二段に掘られている。屋敷地の北限を画す溝溝なのである。周辺の調査結果から勘案すると、中世屋敷地は東西60m、南北30mの大規模なものになる。14世紀前葉には廃絶したようである。



第19図 18G 遺構図

## 大和川今池遺跡（05020）

- (1) 松原市天美西7丁目 地内
- (2) 今池処理場内建設工事（機械濃縮棟・管廊・焼却炉棟）
- (3) 杉本清美

大和川今池遺跡は、松原市天美西、堺市北区常磐町、大阪市住吉区庭井に跨って所在する遺跡である。

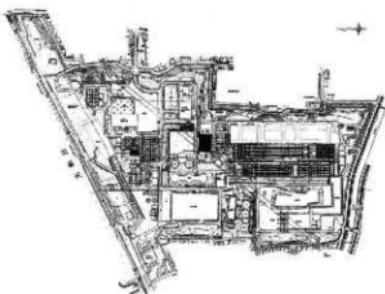
今回の調査は、今池水みらいセンター（旧称・今池処理場）内の施設建設工事に伴い、1区（機械濃縮棟・1250m<sup>2</sup>）、2区（管廊・350m<sup>2</sup>）、3区（焼却炉棟・370m<sup>2</sup>）において、平成17年6月から平成18年3月まで発掘調査を実施した。

1区は、昭和63年度に発掘調査を実施した調査区Cの東側、調査区D・E区の北側、さらに調査区Bの南側に位置する。現地盤（T.P.+13.0m）から層厚4mの盛土、及び旧耕土を機械で除去した後、人力で遺構面の確認に努めた。第1面では、東西方向に延びるスキ溝を検出した。直上包含層から瓦器梶片などが出土した。第2面は、調査区の西側に向けて地山面がやや高く、東側は低くなり湿地状を呈す。遺構として、南側から延びる数条の溝と溝から一気に北側へと浅い窪地状遺構が広がる。下層面では無数の足跡が見られた。窪地状遺構の西側部では、高壙脚部片、壺身・蓋片などの須恵器片や上師器片が南北方向の帶状に散在していた。窪地状遺構の東側では区画する様に南北方向の畦畔が延びる。さらに東側は低くなり浅い不定形土坑がいくつかみられた。

2区は、1区の東側に近接するもので、昭和63年度に発掘調査を実施した調査区Fの北側に位置する。1区同様に、第1面では東西方向のスキ溝を検出した。第2面では、南北方向に延びる畦畔と南側から延びる数条の溝、窪地状の不定形土坑を検出した。遺物は、溝内から須恵器片などがわずかに出土した。

3区は、昭和54年度に発掘調査を実施した第5調査区の北側に位置する。層厚約4mの盛土、旧耕土を除去すると、第1面として南北方向のスキ溝を検出した。耕作面は数層重なっており、南北方向のスキ溝と畦畔が確認できた。第3面では、南西方向から延びる溝、浅い不定形土坑が広がっていた。北側はやや低くなり、東西方向の浅い自然流路跡がみられた。さらに、下層では旧河川跡を確認することができた。調査区の南側から北西方向にやや蛇行しながら延びる。検出することができた旧河川の上面幅は10m以上を測る。黄褐色砂・細砂が約1mの厚さで堆積していた。遺物は出土しなかった。

今回の調査では、古代において広域にわたり湿地状況であったことがうかがえた。同遺跡内では、難波大道跡が確認されている。時期的な関係の解明が必要と考えられる。



第20図 調査区位置図



第21図 3区全景

## 太井遺跡（05021）

- (1) 堺市美原町北余部地内
- (2) 府立農芸高校下水道放流切替工事
- (3) 阿部幸一

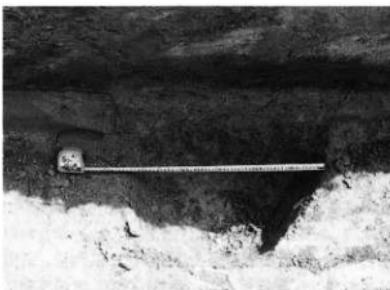
この高校では牛舎棟建設時に発掘調査が実施され、古墳時代後期の竪穴住居や掘立柱建物跡が検出されている。今回、下水管切替え工事に伴い調査を実施した。工事は、下水管敷設予定地を0.8~1m幅で掘削する。掘削深度は、北側と西側の実習施設周辺は1~1.5mである。一方、南エリア（A）は1.5m近く盛土されているため、2.5~3mの深さまで掘削した。危険なため、断面観察に留めたが、遺構、遺物は検出できなかった。運動場中央から南は遺跡範囲外となっており、プール南東側（C）では河道堆積とみられる砂礫層が盛土の下に2m以上堆積していた。遺物は出土しなかった。温室エリア（D）は既設埋管で搅乱されていた。

北ゲート付近（E）では、0.5~0.7mの厚さで盛土と舗装がある。盛土、旧耕土、床土の灰黄色土の下は浅黄色（2.5Y7/4）砂質土が50~80cmの厚さで観察され、瓦器、土師器や須恵器の小片が出土した。遺物包含層は褐灰色土（10YR4/1~5/1）で、牛・鶏舎棟（F）付近で、5~10cmの厚さで観察される。地山は明黄褐色（2.5Y7/6~6/6）粘質土である。鶏舎施設の南端で古墳時代後期頃の土器と地山の黄褐色上上面でピットを1ヶ所検出した。今回の調査で確認した唯一の遺構である。

牛舎東側（G）は耕土の下にオリーブ灰色（10Y5/2）疊混じり粘土が30~50cm堆積しており、沼か池があったと考えられる。



第22図 調査区位置図



第23図 ピット検出状況



第24図 調査区位置図 (本文A~G 1/3,500)

## 千里丘2丁目所在遺跡(05024)

- (1) 摂津市千里丘1丁目
- (2) 都市計画道路千里丘三島線道路改良事業
- (3) 一瀬和夫・小川裕見子

### はじめに

千里丘三島線道路改良事業とJR千里丘駅前再開発に伴い、JR千里丘駅東口と西口とを線路をくぐって結ぶ小坪井架道橋の拡幅工事が行われている。当該地域周辺では、これまでにも立会・試掘を含む調査で多くの遺跡が確認されており、今年度の工事を開始するに当たって、まず平成17年7月、2日間にわたって計6ヶ所のトレンチを入れる試掘と確認調査を行った。そのうち当該道路の北側、JR線路西脇に並んで設置した2箇所のトレンチより、中世期のものと見られる遺物遺構を確認した。この結果を受けて、両トレンチを中心に調査区を設定し、平成17年9月~10月にかけて約1ヶ月に及ぶ発掘調査を実施した。

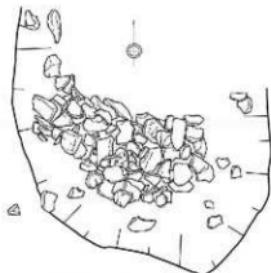
### 調査の概要

地表面より約-0.45~0.65m付近の旧耕作土上面まで機会掘削で除去後、約-1.33~1.50mまで人力掘削を行った。遺構が検出された文化面は3面存在し、各々①近世、②鎌倉時代前後の中世期、③奈良・平安の古代期~縄文期における耕作・建物の痕跡を中心とした遺構を検出した。また、各々の時代を特徴づける陶磁器・瓦器・黒色土器・土師器・須恵器・瓦・石器等の遺物が出土した。

遺構が最も集中していたのは②中世期の面であり、東西方向に走る鋸溝群に加えて、ほぼ南北方向を主軸とする掘立柱建物が8棟まで確認された。③古代期以前の面では、調査区の北東隅近く（調査区北壁アゼ上）では縄文期のものと見られる地層よりサヌカイト製石器の集積を検出した。チップを除いて1.5~9.1cmの大きさのものが合計で137点であった。③面上T.P.+8.6m付近において、主だったもので16点が出土していたが、その上層の16点を取り上

げ後、ピット内にレンズ状に堆積した状態で出土した。堆積中心部の厚さは約9.3cmであったが、完成品と見られるものはなかった。また調査区の東側からは縄文土器の破片も出土した。

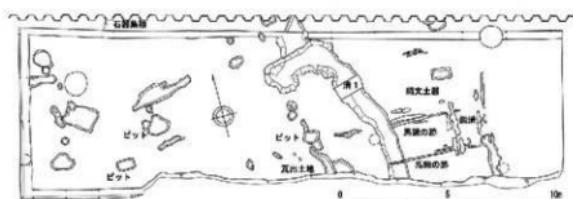
試掘・確認調査の結果より、本調査区の周辺では、中世以前の遺構は全般的に後世の耕作などによって削平されているが、本調査区は南北方向の谷部分の北側に相当し、遺構面の削平が免れたものと解釈できる。現在、新規発見遺跡名は千里丘1丁目所在遺跡第2地点となっている。



第25図 石器出土状況



第26図 石器出土状況



第27図 古代期以前の遺構平面図

## 府中遺跡（05027・05037）

- (1) 和泉市府中町 (05027) ・和泉市肥子町 (05037)
- (2) 一般府道和泉中央線改良工事
- (3) 藤澤真依

調査地 (05027・165m<sup>2</sup>) はJR阪和線から約200m東南に位置する。基本土層は5層である。

第1層は盛土および表土で、層厚0.6mを測る。  
現地表面の高さはT.P.+19.4mである。

第2層は灰色土0.2m、灰黒色土0.1m、耕作土であり、色の違いにより2層に分けられる。

灰色土は盛土される直前まで使用されていた耕作土で、現代の瓦が確認された。灰黒色度はより古い耕作土の残りである。

第3層はくろい黄橙色土で、層厚0.1～0.2mを測る。上面が第1面で、道路状遺構と方形周溝墓を2基検出した。層内からは縄文時代晩期の土器を出土した。

第4～1層は砂質灰色土で、層厚0.1～0.2mを測る。上面が第2面である。層内からは縄文時代後・晩期の土器を出土した。

第4～2層は粘質灰色土で、層厚0.1～0.2mを測る。上面が第3面である。層内からは縄文時代後・晩期の土器を出土した。

第5層は橙色土で、地山となる。上面が第4面であり、埋土に炭・焼土を多量に含む土坑を検出した。層内から遺物は出土せず、無遺物層と考えられる。

道路状遺構は調査区西北面の現道直下で検出した。南西から北東方向に続く台状遺構である。幅1.80m、高さ0.10m、検出長8.5mを測る。断面の観察によると、第3層を削平して水田を造成する際にこの部分を削り残し道路としたことがわかる。周辺条里地割の坪境に当たる。

方形周溝墓は2基検出した。どちらも平成14年度・15年度の調査で部分的に検出していたものである。規模は両者ともほぼ同じで、溝の内側で東南～西北約8m×東北～西南約10mを測る。両者で各1基検出した主体部は組合せ式木棺で、人骨・副葬品等は確認できなかった。2基は周溝を共有しており、埋土の状況から東南に位置する方形周溝墓が先に造られたようである。周溝内からは約40点の土器を出土した。

第2・3面では不定形な土坑を検出した。

第4面で検出した土坑は、幅1.5m、長さ2.5m、深度0.5mを測る不整規円形で中に焼土・炭が多量に含まれていた。その炭は放射性炭素年代測定した結果はB.P.2774±23およびB.P.2868±23であった。

調査地 (05037・140m<sup>2</sup>) はJR阪和線から西北20mに位置する。基本土層は6層である。

第1層は盛土および表土で、層厚1.0mを測る。  
現地表面の高さはT.P.+19.4mである。

第2層は灰黒色土0.2m、盛土される直前まで使用されていた耕作土である。

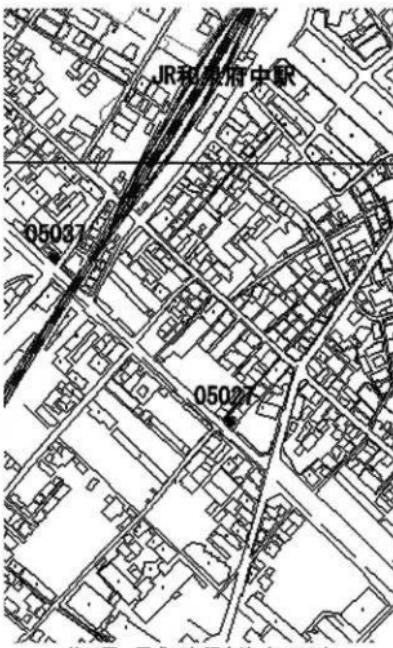
第3層は暗青灰色粘土で、層厚0.5mを測る。層内からは瓦器・須恵器等を出土した。

第4層は灰褐色砂で、層厚0.1～0.2mを測る。層内からは須恵器・土師器等を出土した。

第5層は青灰色粘土で、層厚0.2mを測る。層内からは須恵器・土師器等を出土した。

第6層は緑白色粘土で、層内から遺物は出土せず、地山と考えられる。

遺物は出土したが、明確な遺構は確認できなかった。



第28図 平成17年調査地 (1/5,000)

## 平石遺跡（05028）

- 1) 河南町平石
- 2) 中山間地城総合整備事業「南河内ごせ地区」
- 3) 桥本哲

平石遺跡は、平石谷流域一帯の事業対象となる棚田において、平成11年度に実施した確認調査でその存在が確かめられた。今年度はツカマリ古墳の東、現集落域にかかる谷間両岸に展開する現状の棚田を中心に、平石川左岸で25地点、右岸で19地点を調査対象とした。総面積は約4650m<sup>2</sup>である。これは上記整備事業の切土工法にかかる個所である。地積図、地形図、調査結果を総合すると、調査対象地全体は南北両方向から谷底に下る尾根によっていくつかの谷地形をなし、そこには流水として繰り返し堆積していった砂または砂質土が溜まっている。棚田はこのような谷地と尾根の地山を基盤として、そこに水平に土を盛って整えられ、後世さらに拡張もなされている。今回の調査でコンテナ5箱分の出土遺物を得たが、大半は摩滅した土器の小片である。遺物はほとんどの棚田に認められ、内容的には瓦器、土師質小皿、陶磁器など中世?近世の遺物が圧倒的で、奈良時代の土師器、須恵器がこれに次ぐ。しかし布留式土器、5世紀代の須恵器甕、また平安時代の黒色土器を出土した地点もあり、中世以来活発に行われた棚田開発による旧地形の変貌以前の状況も判明してきた。土器以外ではサヌカイト製石鎌が出土し、またサヌカイト片は谷間両岸で旧耕土に混入することも從来の調査結果と同様である。

地積図に「坊ノ尻」、「大門」、「舍利」、「堂ノ前」、「堂ノ西」、「堂ノ東」、「中垣内」の小字が残る、地形的にも安定した南に張り出す尾根の中腹を、東して平石峠に至る古くからの街道が東西に貫き、その街道筋に沿って集落が発達している。この街道より南の数枚の棚田に設定した約912m<sup>2</sup>の調査区では、棚田造成によって相当な削平を被っていたとはいえ、わずかに残った奈良・平安時代の包含層とその下に若干のピットを検出できた。ピットには埴物の一部を構成するものもある。

14世紀半ばに足利義詮の楠木攻めの際に焼死したと伝える平石谷の堂塔伽藍は、この「大門」付近から現在の高貴寺まで点在していたといい、この調査区はちょうどその入口に近い位置を占めている。以後、それらの多くは耕地拡大の過程で潰えたが、一部は近世にも法灯を伝え、石川三十三所観音霊場の札所として南河内に聞こえた。しかし明治の廃仏毀釈によってその面影はまったく失われてしまった。香花

寺（高貴寺）は奈良時代前期の創建といわれる。近年、その奥の院ではわずかながらも同時期の須恵器片が発見されている。平石谷のこれまでの調査でもこの時期の遺物は下流より上流にかけ、中世遺物に次いで多く出土する。葛城山西麓の前山の南斜面を利用した7世紀の造墓活動の時代が過ぎてまもなく、平石峠入口から谷間右岸の現集落付近一帯は広く香花寺の寺域となっていくようである。小規模な掘立柱建物の一部、ピット内の炭の混入、黒色土器碗の出土など、今回検出された遺構は、奈良時代以降、中世に至る時期のこの地の状況を反映しているとみられる。



## しふるやきた 部屋北遺跡 (05030)

- (1) 四條畷市部屋・砂  
(2) 寝屋川流域下水道事業「なわて水環境保全センター」  
(3) 関田 賢

### はじめに

なわて水環境保全センター建設に伴う部屋北遺跡の調査は、水処理施設（A・B・C調査区）、ポンプ棟・沈砂地棟（D調査区）、急速ろ過池（E調査区）の建設予定地が、平成13年度から順次行われ、弥生時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。特に古墳時代中・後期の遺構面は「河内の馬飼」との関連を想定させる遺構、遺物（馬埋納土坑、馬骨、木製輪鏡など）を中心に、堅穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸、土坑、溝などが谷状の地形を挟んで複数の遺構群を形成しており、これによって当該期の集落跡の構成要素や時期的な変遷が明らかになりつつある。

今回の調査区は、管理・送風機棟建設に伴うもので（F調査区、第2図）、D調査区とE調査区の中間、またB調査区とC調査区の西側にある。調査は平成17年9月に開始し、平成18年8月までの予定で行われる。便宜的に調査区北半部分をF-1区、南半部分をF-2調査区として行った。ここでは平成17年度中に得られた調査成果の概要について述べる。なお調査面積は約2,010m<sup>2</sup>である。

### F調査区の調査概要

調査は表土を機械掘削したのちのT.P.+2.7mより開始した。平成18年3月時点に12面の遺構面を確認している。

第1面は近世の島畠、水田で構成される耕作地、第2～第4面は中世の耕作地である。標高がやや高いF-1区では多数のピット、井戸、竪溝等で構成され、F-1区とF-2区を境に南には水田畦畔が検出されている。



第30図 F-1区第9遺構面（北東より）

第5面では調査区一面で中世の水田畦畔が検出されている。

第6～第9遺構面は平安時代後期の水田畦畔を検出している。

第10・第11面は平安時代前期頃の水田畦畔を検出している。

第12面は奈良時代の水田畦畔を検出している。

調査区はD調査区よりのF-1区の方が各検出遺構面のレベルが高くなっている。これは、F-1北端を東西に流れる自然流路529の氾濫堆積物の影響によるもので、流路529が完全に埋まる中世以降でもややF-1区が高い状況は続く。この高低差が解消されるのは近世段階である。

この流路529は少なくとも8世紀頃には調査区北部を流れおり、この時期から流路内に堆積する土砂を南へ搔き揚げて堤防の土手（土手状遺構524）を形成し、それより南の水田耕作域へ木樋などで取水を行っていることが判明した。また幾度も流路内堆積物を搔き揚げながら上手を高くし、幅を広げている様子が土層断面で確認できるが（第31図）、その際に盛土中に埋納された土器壺や須恵器壺などを検出している。これは平安時代まで確認できるが、中世になると盛土の中に瓦器壺の破片や陶器片を混ぜるようになる。いずれにしても8世紀以降中世に埋没するまで流路529は南側に土手が維持されながらほぼ同じ位置を西流していることが明らかになった。

なお平成18年4月以降は古墳時代中期および後期遺構面（第13面）の調査を行う予定で、その成果が期待されるところである。



第31図 流路529・土手状遺構524土層断面

## とうきみなみ 陶器南遺跡（05038）

- (1) 堺市中区陶器北
- (2) 府営集落基盤整備事業「陶器北地区」
- (3) 関 真一

### はじめに

堺市の東部に位置する陶器北は、市街地から離れた周辺には緑が多く残るのどかな田園風景が広がる地域である。その陶器北地区は「陶器」という地名が示すように、かつて須恵器生産の中心拠点であったことが広く知られている。この地区はおおよそ1000基を数える膨大な窯跡群が認められている「陶邑古窯跡群」の一角を占め、さらには陶荒田神社が鎮座していることなどから、日本書紀崇神天皇七年条にてくる「茅渟県陶邑」であるとする説も提示されている。

### 陶器南遺跡の位置と既往の調査成果

陶器南遺跡は、陶器川がつくった開析谷の南側に位置し、約15年前から場所整備に伴う発掘が断続的に行われていた。陶器南遺跡の周辺には木芯横穴式石室などと呼称される特異な主体部を有し、前方後円墳を1基含む陶器千塚古墳群や5世紀後半代の須恵器生産の拠点である小角田遺跡などが存在する。

陶器南遺跡は主として古墳時代から中世に至る非常に広範な遺跡であることが判明しているが、調査当初はほとんど実態が把握されていない遺跡であった。

かつては周辺から銅鐸が出土したということもあり弥生時代の遺跡と認知されていた感がある。

しかし、調査が進行するにつれ古墳時代の周溝を有する掘立柱建物や、中世の建物跡などが検出され、その認識が改まっていった。

面積も次第に広がり、現在では陶器川南岸では最も大きい遺跡と思われる。

### 今回の発掘調査の成果

今回の調査が場整備に伴う陶器南遺跡の最後の調査にあたり、調査区は大きく4箇所に分かれている。陶器地区周辺は中世における土地の開墾が著しく、そのため中世以降の耕作土に伴って出土する須恵器は5cmぐらいの大きさになっている。

今回の各調査区でも開墾により大きく旧地形が改変されているようであり、古墳時代の遺構はほとんど見出すことはできなかった。

おおよそ各調査区とも遺構面は2面存在し、いずれも上面の遺構面は鋸溝群が検出されている。遺物は少なく、非常に小さいため時期を同定するには至らなかった。下層の遺構面は地山での検出となった。

それらのなかで特に注目される遺構について以下に述べる。

### 1. 南北方向の溝

最も東端の調査区において、南北方向の溝が確認された。埋土には多くの須恵器が認められ、それ以外の遺物は出土しなかった。遺物は整理中であるが、おおよそ7世紀ごろの遺物が含まれるようであり、器種は壺・壺身・壺蓋・高台のついた椀などである。

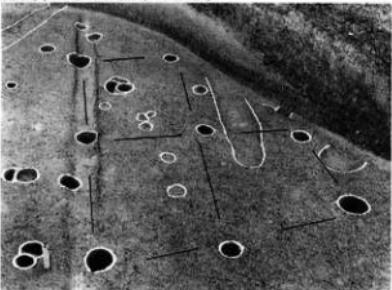
### 2. 掘立柱建物

今回の調査区において最も南側に位置する箇所で複数のピットとともに検出された。調査区の南側にも開折谷が存在しており、それに向かって地山のレベルが下がる位置にあたる。おそらく後世の開墾時には、レベルの高い箇所を削り、低い地に盛土をして平坦面を形成したために結果として残ったのである。

掘立柱建物は検出された限りでは2間×2間のもので、南側は調査区外にあたり全容は不明である。また、北側の建物柱穴に平行してピットが存在し、庇を有する建物であった可能性もある。遺構から遺物が出土しておらず、所属時期は判断できない。

### まとめ

今回の調査においては、窯跡群に関する古墳時代の遺構はほとんど認められなかった。他の調査地でも、中世における開墾により地形が改変され、古墳時代の遺構が認められなかった箇所もあり、今回もそれと同様な様相と考えられる。出土遺物は整理中であるが、ほとんどが須恵器であり、時期も6世紀以降のものが大半である。



第32図 掘立柱建物検出状況（北から）

## 和泉寺跡（05041）

- (1) 和泉市府中町4丁目
- (2) 都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業
- (3) 藤澤真依

調査地はJR阪和線和泉府中駅から東南へ約1kmの地点で和泉中央線を横断し西南から東北方向に伸びる道路用地の幅20m、延長約350mを調査した。調査目的は試掘および確認調査である。

1区は灰黒色土（耕作土）0.2m、灰褐色土（遺物を極少量含む）0.3~0.5m、灰白色土0.05~0.15m、灰褐色疊となる。灰黒色土上面の高さはT.P.+20.7mを測る。遺物は灰黒色土・灰褐色土から僅かに出土しただけであり、明確な遺物包含層はなく、遺構も検出しなかった。

2区は灰黒色土（耕作土）0.1~0.15m、灰褐色土（遺物を少量含む）0.15m、灰白色土0.05~0.15m、灰褐色疊となる。灰黒色土上面の高さはT.P.+20.85mを測る。遺物は灰黒色土・灰褐色土から僅かに出土しただけであり、明確な遺物包含層はなく、遺構も検出しなかった。

3区は灰黒色土（耕作土）0.1~0.2m、褐灰色土0.1m、灰褐色土（遺物を含む）0.15~0.25m、暗灰褐色疊となる。灰黒色土上面の高さはT.P.+20.9mを測る。遺物は灰黒色土・灰褐色土から僅かに出土しただけであり、明確な遺物包含層はなく、遺構も検出しなかった。

4区は灰黒色土（耕作土）0.2m、灰褐色土（遺物を含む）0.05~0.1m、暗灰褐色疊となる。灰黒色土上面の高さはT.P.+22.05mを測る。灰褐色土からかなりの量の遺物を出土したが、遺構は確認できなかった。

5区は灰黒色土（耕作土）0.2m、灰色土（遺物を少量含む）0.25m、灰褐色土（遺物を少量含む）0.2m、暗灰褐色疊0.15~0.6m、黄色粘土となる。灰黒色土上面の高さはT.P.+22.05mを測る。遺物は灰色土。灰褐色土から少量出土した。遺構は黄色粘土上面で黒褐色粘土を埋上とするピットを検出した。

6区は灰黒色土（耕作土）0.2m、灰白色土0.1m、褐色土（遺物を含む）0.15~0.25m、灰褐色土（遺物を含む）0.05~0.3m、茶褐色粘土・茶褐色疊となり黒色粘土が部分的に点在する。黒色粘土が遺構になる可能性がある。灰黒色土上面の高さはT.P.+22.2mを測る。遺物は褐色土からかなりの量出土した。遺構は褐色土上面で鋤跡と考えられる浅い溝を数条、茶褐色粘土上面で土坑等を検出した。

調査の結果と地形から1・2・3区を含む4・5・6区より南の部分は横尾川の氾濫源と考えられることから調査範囲から除外しすることとし、4・5・6区を含む範囲を新たに遺跡として追加した。



第33図 平成17年度調査地 (1/5,000)

# 安威（安威城跡）遺跡（05044）

- (1) 茨木市東安威地内
- (2) 主要地方道茨木龜岡線道路整備工事
- (3) 奥 和之

## はじめに

昨年度の調査に引き続き、ほぼ南北に走る道路の東側、調査対象地の内、遺物包含層まで掘削が達する部分を幅約2mおよび幅約4mの範囲で発掘調査を行った。今年度の調査は、17-1区、17-2区の2調査区に分かれる。

## 調査の概要

17-1区（安威遺跡）　掘削が地山の上層で終わっているため不明な点が多いが、調査区周辺の地形は、西側の山から派生する丘陵の端部付近と推定される。調査区は、長さ約65m、幅約2mを測る。

調査地区的土層断面および平面観察の結果、道路下約1.5m下、掘削の最下層の一部に0.3mから0.5m前後の川原石が折り重なる状況で無数検出した。川原石の間は空間があることから、旧地形では斜面であった地点を造成し、平らにするため川原石を敷き詰めたものと推定される。その上層には厚さ0.1m前後の褐色の砂質土層、最上層には0.2m前後の耕作土層が堆積する。出土遺物は、造成時の遺物と推定される近世瓦、中世と推定される瓦器片、土師器小皿片などが出土している。

17-2区（安威城跡）　調査区は、北側が幅約2m、長さ約69m、南側が幅約4m、長さ約32mを測る。調査区北側の大半は、掘削が遺構面上で止まるため、遺構の状況が不明な点が多い。ただ北端から27mの区間は、掘削が遺構面にまで達したため、遺跡の状況を確認することが出来た。検出した遺構は、土坑と推定される。土坑は、幅約10m、深さ

0.4m以上を測る。遺構の周辺は、南北に走る水道管が東半分を占めているため、調査区の幅が狭く不明な点が多い。ただ、土層断面観察の結果、遺構の一部に炉跡が認められた。出土した遺物から時期は、弥生時代末期から古墳時代初期にかけてのものと推定される。また注目される遺物として遺構埋土中より坊製鏡（重圓文鏡）が出土している。

調査区南側の遺構の大半は平安時代で、一部古墳時代初期のものが認められる。

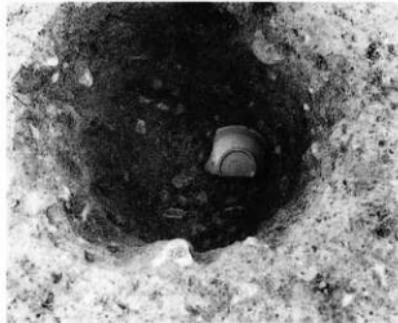
平安時代の遺構は柱穴で、総数80個に近い。平面形では方形に近いものと円形に近いものの2種がある。調査区の幅が約4mと狭いため建物の検出には至らなかったが、柱穴の並びは2箇所存在する。柱穴から出土した遺物は、方形のものからは須恵器、土師器、綠釉陶器、円形のものからは黒色土器、土師器などが出土している。



第35図 桑原・地福寺遺跡調査区位置図



第34図 桑原・地福寺遺跡調査区位置図



第36図 桑原・地福寺遺跡調査区位置図

# 桑原遺跡 (05045・06001)

- (1) 茨木市桑原地先
- (2) 安威川ダム建設事業の残土処分地「桑原地区」内
- (3) 一瀬和夫・小川裕見子

## はじめに

安威川が丘陵から平野の段丘部に抜ける途中で水流が大きくS字に曲がり、西側に張り出す微高地の上に本遺跡は位置する。

遺跡から東側は高槻市側の丘陵へ急上昇し、その頂部付近には7世紀末の阿武山古墳やその南斜面には6世紀を中心とした塚原古墳群がある。安威川を挟んだ西側の対岸、やや上流にも7世紀の初田古墳群があり、この遺跡は飛鳥時代前後の古墳に囲まれた特異な歴史的環境をもつ。

安威川ダム建設に伴い、その残土処分地に当たる桑原遺跡の調査を平成16年度から行ない、合計約9,300m<sup>2</sup>の調査を平成18年5月に終了した。そのうち今年度は約3,880m<sup>2</sup>の調査を行った。

平成16年度から行なっている調査の結果、中世の谷や掘立柱建物・環濠状溝群、飛鳥時代前後の溝・土坑が見つかった。

平成17年度下半期から平成18年度上半期に行なわれた今回の調査では、上層では中世の建物跡・耕作痕、下層では古墳時代後期から飛鳥時代にかけての

群集墳が24基以上も見つかった。

擾乱等に混じって出土する土器片より、そのさらに下層にも弥生時代の遺跡が存在すると見られたが、古墳時代面で発掘を終了し、それより新しい遺跡の性格を把握し、記録することで今回の調査を終え、古墳時代以前を埋没保存する状態に留めた。

## 調査の概要

今回の調査成果として重要なものに、7世紀前半を中心とした古墳時代終末期の群集墳が新たに発見されたことがあげられる。主に検出した遺構として、中世の掘立柱建物、その下層に24基以上の古墳がある。この群集墳は周溝を共有し、密集して存在しており、分布状況が古墳終末期に特徴的であった。

## 上層遺構

中世期に居住・耕作用地を獲得するために、古墳を破壊した様相が確認できた。石室の空洞部に丁寧に礫等を投げ入れ、地盤を固めた上に宅地や耕作地として利用していた。また周辺の後代の石垣や、石室に残された石には多数の矢穴が見られ、石室の巨石は再利用されていた。

## 古墳時代終末期の群集墳

24基の古墳は横穴式石室もしくは磚室を伴っていたと思われ、8基の石室は良好な状態で残されていた。これらに加えて墳丘を持たない碑敷きの竪穴小石室、土塙墓が存在した。当時の原地形にある谷を利用した墓道によって石室開口部の方向が定められ、①調査区中央の尾根の稜線沿いを中心に分布するA支群（1～10号）

②調査区西南に位置する谷筋からアクセスできる位置にならぶB支群（1～8号）

③調査区東側の谷筋からアクセスできる位置に並ぶC支群（1～5号）

の3つの支群に分けた。古墳の切り合い関係より、3つのグループはさほど大きな時期差ではなく併行して形成されたが、地形的に高地で一番条件の良い、尾根の稜線をさけてやや下った位置を埋めるA支群が一番早くに形成され、空いた位置を埋めるように両脇のB・C両支群が統いて形成されていったと考えられる。

古墳は石室内より出土する副葬土器から、7世紀前半～中葉あたりを中心とした時期である。残されている石室はどれも、無袖タイプで、長めの玄室の



第37図 桑原遺跡調査位置図と周辺の遺跡

南端の開口部に直接墓道が繋がる。墓道は周溝に向かって急速に下降し排水溝の役割を兼ねるものもある。

### C 3号墳（八角墳）

八角の角が石室主軸の背面にあたる、桜井市舒明陵古墳に見られるタイプの八角の墳丘のものがある。周溝は墓域を囲むように周り、その下には上面がロート状に口が開き底部はV字型の断面を持つ、墳丘内排水溝の存在が確認された。

石室は中世時に破壊されているが、追葬の痕跡は確認されなかった。石室床面には、奥壁から3mあまりまでにわたり挙大の角ばった礫が敷き詰められていた。棺台になる4つの石と出土した鉄釘の位置から、木棺が1基埋葬されていたとみられる。石室開口部では、東側の谷に向かって下降する墓道が確認された。石室内の主だった遺物は7世紀中葉の土器であった。

### A 3号墳と陶棺

調査区中央部南端に位置する円墳であるA 3号墳の主体部は特に残存状況が良く、石室内床面は、初葬である陶棺が据えられていた。その原位置は石室奥や西寄りの区画に平たい川原石が周辺より丁寧に敷き詰められたところと考えられる。その南側に向かって不ぞろいの川原石が多くなり隙間を埋めるように約5~7cmの大バラスが敷き詰められていた。

後に陶棺は西に寄せられ、石室奥の西側と石室手前に1基ずつ木棺が追葬され少なくとも3回にわたる埋葬が確認できた。

石室は中世に破壊された痕跡が残る。まず木棺を燃やし、陶棺を手前に引きずり、大井石を石室内に落し込んで陶棺を下敷きにしたという状態が復原できる。

陶棺は須恵質四注式であり、棺身の幅が狭いということや、脚部に透孔を持たないという細部の特徴から、本遺跡に近接する塚原古墳群から出土した陶棺と類似し、7世紀中葉のものと見られる。

その他の出土遺物

その他の主な出土遺物としては、石室内と古墳周溝より金・銀の耳環や玉、などが出土した。そのほかにも、周溝や石室とその周辺より、被葬者に供献されたものと見られる須恵器・土師器なども良好な状態で多数出土しました。古墳群周囲の溝や土壤からは、中世期の瓦器椀、南東側には掘立柱建物に伴って黒色上器椀なども出土した。また、弥生～布留式土器、中国破鏡をペンドントにしたものも出土する。

まとめ

今回の調査で確認された古墳群は、周辺地域の古墳では見られなかった谷斜面で密集する特徴的な分

布を示している。

また、薄葬化がすむ7世紀中葉に及んで、玄室長6m、幅1mを越える立派な石室が複数有り、多いもので完形15点に及ぶ副葬土器をもつ古墳が存在した。三島地方の中心部を流れる安威川沿いにあり、平野部の水源にもあたる位置にあることからも、東の丘陵頂部にある史跡阿武山古墳も含め、三島地方有力氏族の墓地となっていたと考えられる。



第38図 C 3号墳平面図



第39図 A 3号墳と陶棺

## あやかわ 鮎川遺跡 (05046)

- (1) 茨木市鮎川
- (2) 都市計画道路富田目垣線整備事業
- (3) 井西貴子

### はじめに

本遺跡は茨木市鮎川、富田目垣線の鮎川交差点の北側に位置し、道路改良工事に伴って発掘調査を実施した。調査地北側では北西から南東方向に流れる旧流路が確認され、南端では自然堤防上に平安時代以降の柱穴跡が検出された。

### 基本層序

第0層 盛土。調査区全域で確認される。標高6.9m。層厚1.4~1.6m。

第1層 旧耕土。調査区全域で確認される。標高7.5~8m。層厚0.1~0.4m。土師器・須恵器・青磁碗・染付などが出土した。

開発以前の耕作土である。ほぼ調査区全体で確認された。

第2層 耕作土。調査区全域で確認される。標高5.3~5.6m。層厚0.1~0.2m。弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・磁器・陶器・昭和の陶器などが出土した。

暗青灰色粘質土。近代以前の耕作土である。層厚はA地区・B地区において10cm程度であるが、C地区では20cmとやや厚くなる。

第3-A層 耕作土(中世)。A・B区で検出した。標高5.2~5.5m。層厚0.1~0.3m。須恵器・土師器・黒色土器・瓦器などが出土した。

灰黄褐色粘質土1。中世の耕作土である。B区の北側では層厚も厚く、4層に分かれるが、南に向かうに従い厚みは減り、B4区では一層となって、C区へは続かない。遺物の出土量は少ない。

第3-B層 中世包含層。 C区でのみ検出した。標高5.1~5.3m。層厚0.1~0.2m。須恵器・土師器・黒色土器・土師質土器・瓦器・瓦質土器・白磁・陶器などが出土した。

7.5Y6/2灰褐色土。ところにより7.5Y4/1灰色を呈する。

第4層 整地土(中世)。C区でのみ検出した。標高5.1~5.2m。層厚0.1m。須恵器・土師器・土師質土器・瓦器などが出土した。

5Y5/1灰色礫。C区内で完結する礫層である。流路のように砂層を伴わないことから、整地層と考えられる。礫中に大量の遺物を含み、周辺に古代から中世に至る集落のあったことを想定させる。

流路1埋土 中世の流路。B・A区で検出した。標

高5.2m。須恵器・土師器などが出土した。

第5層 古代包含層。A・B区で検出した。標高5~5.2m。層厚0.1~0.2m。

灰オリーブ色砂質土。弥生土器・土師器などが少量確認されたが、遺物をほとんど含まない層である。

第6層 A・B・C区で検出した。標高5m。層厚0.1~0.4m。古墳時代後期の包含層である。須恵器・土師器が出土した。

黄褐色砂質土。上面で、BからA区に抜ける流路が切り込む。C区では上面で遺構を検出。

流路2埋土 古代の流路。B・C区で検出した。標高4.9~5m。土師皿(奈良時代)が出土した。

### 第7層

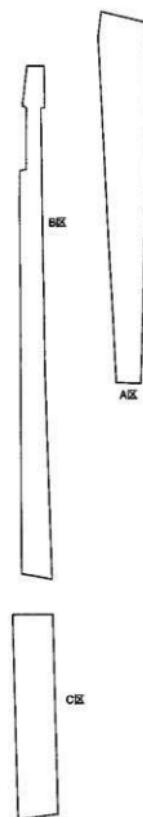
古墳時代包含層。A区で検出した。標高4.7~4.8m。層厚0.1~0.2m。

褐灰色砂質土+鉄分含む。A区でも東側にだけ確認される層である。

### 第8層

古墳時代包含層。調査区全域で確認される。標高4.6~5.1m。層厚0.1~0.4m。庄内~布留式期の遺物が出土した。

オリーブ褐色粘土。古墳時代前半の包含層である。遺物はA区の北でまとまって出土したが、ほかの地点で少ない。B区では流路が切り込んでいる。



第40図 調査地位置図 (上が北)

## の はした 野端遺跡 (05060)

- (1) 豊能郡能勢町山内  
(2) 一般府道亀岡能勢線歩道設置工事  
(3) 辻本 武

### 調査に至る経過

野端遺跡はかつて琥珀製勾玉が採集されたことによって発見・周知された遺跡である。勾玉は現在能勢町教育委員会の所蔵となっている。

平成8年度に歌垣第二地区農村基盤整備事業に伴って試掘調査を実施したところ、当遺跡周辺で古墳時代から中世にかけての包含層と遺構・遺物が発見されたため、遺跡範囲の拡大措置がとられた。

平成17年度になって、当遺跡を東西に走る府道亀岡能勢線に歩道設置工事が計画されたので、それに先立って発掘調査を実施したものである。

### 調査結果

当遺跡西端部にあたる3~5区では、奈良~平安時代の遺物包含層が広がることを確認した。3・4区では厚さ20cmであるが、5区では50cmを越えるほどであった。この層を除去すると地山面となり、小ピット群と溝を検出した。

小ピット群は3区で検出した遺構で、径0.4~0.5m、深さ0.3mのものが3つある。1.5mの等間隔ではあるが、一直線上には並ばないので建物跡とするには疑問が残る。

5区で検出した溝は幅4.5m、深さ0.4mを測る。溝内には大きな地山ブロックが放り込まれた状態であった。方向は今回の狭小な調査区で検出した範囲では南北方向である。

1区では池跡と思われる落ち込みを検出した。埋土は黒色粘土で、上層からは小さな木片が出土したが、下層からは全く出土するものがなかった。地元の方によると、大昔のこの周辺は池であって、そのために田の下を掘ると粘土が出てくる、この粘土で瓦を焼いたこともあったという話であった。今回の調査はこれを裏付けるものとなつた。

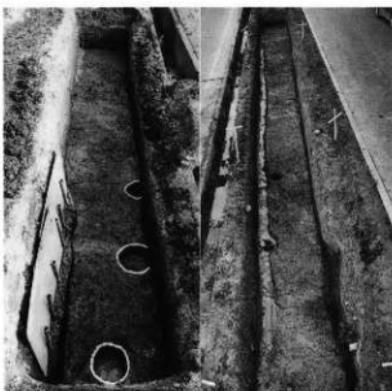
出土遺物としては、奈良~平安時代の須恵器壺・壺、土師器甕・皿・高壺、黒色土器、製塩土器がある。当能勢町は海から離れた山中にもかかわらず製塩土器の出土が多く、注目されるところである。

他に中世の丹波型瓦器碗、輸入青磁、唐津焼が出土しているが、この時期の遺構は検出されなかつた。

山内地区ではこれまで奈良~平安時代の遺物が出土するだけであったが、今回包含層が確認され、築落跡の存在が初めて判明した。今後この周辺における調査に期待するところである。



第41図 野端遺跡位置図



第42図 調査区（3・4区）遺構面写真



第43図 調査区（5区）断面包含層の状況

## 陵東遺跡 (05065)

- (1) 羽曳野市島泉・藤井寺市恵美坂地内
- (2) 都市計画道路八尾富田林線予定地内試掘
- (3) 三木 弘

都市計画道路八尾富田林線予定地が丸山・平塚(雄略陵)古墳に近接することから、試掘調査を実施した。遺構・遺物を発見したので、新規発見の遺跡とし、「陵東遺跡」と名付けた。

調査区域内の地形は2分される。ひとつは、調査区の東を南北に延びる埋没谷の西崖にあたる部分(第1・2・7トレンチ)、あるいは谷につながる小支谷内にあたる部分(第4・6トレンチ)で、そこでは1.1~1.5mの盛土の下に灰色粘土の旧耕作土があり、近世の耕作土とみられる青灰色・明灰色・灰(白)色の粘土が60~90cmの厚さで続く。その下に古代(~中世)の遺物を含む褐灰色粘シルトがあり、地点によって古墳時代の遺物を含む褐灰色砂質土が存在する。

第7トレンチでは、褐灰色砂質土の下部で、小型円筒埴輪3本(1・2・3)を合口にした埴輪棺を検出した。周辺には別個体片(4・5)も散在する。6世紀代に比定できよう。

いまひとつの地形は、台地上にあたる部分(第3・5トレンチ)である。

第3トレンチでは、現状の水田下に25cm程の中・近世の耕作土・遺物包含層があり、約10cmの地山上堆積土、地山へと続く。地山は北方へ下降し、トレンチ北端では現地表下1.2mでも達しない。また南端から6m付近で、幅5m、現状の深さ50cm程の溝を発見した。古墳周溝の一部の可能性がある。

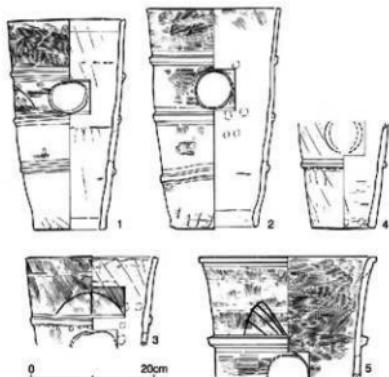
第5トレンチでも、現地表面下1.3mで北東ー南北方向の2段掘りの溝を検出した。



第44図 円筒棺検出状況



第45図 トレンチ位置図



第46図 出土埴輪

## ＜平成17年度普及啓発・広報事業一覧＞

### ●研究会・検討会等

#### A 研究会

・平成17年 9月17日

##### 第51回大阪府埋蔵文化財研究会

テーマ：「古墳時代の発掘調査事例—集落跡の調査を中心に—」

会 場：大阪府教育委員会文化財調査事務所

・平成18年 3月11日

##### 第52回大阪府埋蔵文化財研究会

テーマ：「中近世を中心とした遺跡調査の成果を語る」

会 場：大阪歴史博物館

#### B 調査等スライド検討会

・平成17年 5月11日

##### 杉本清美「寺田遺跡発掘調査概要」

・平成17年 6月 8日

##### 岡田 賢「出土馬糞の基礎的研究」

##### 小川裕見子「英國遺跡保全と博物館」

土屋みづほ「石器のライフヒストリー～京都府久御山町出齐当坊遺跡を中心に～」

三好 玄「布留式上器様式構造の再検討」

・平成17年 7月13日

##### 横田 明「福井遺跡の発掘調査」

・平成17年 9月14日

##### 地村邦夫「松原市堀遺跡(D.T区)の調査概要」

・平成17年10月12日

##### 岩崎二郎「調査事務所の歩み」

・平成17年11月 9日

##### 西口陽一「菊川石製片刃石斧」

・平成17年12月14日

##### 井西貴子「禁野本町遺跡の調査」

・平成18年 1月11日

##### 上林史郎「堺市陶器遺跡の調査」

・平成18年 2月 8日

##### 岩瀬 透「藤屋北遺跡の調査」

・平成18年 3月 8日

##### 泉本知秀「発掘45年、よもやま話」

### ●発掘調査の現地説明会

・平成18年 1月14日

藤屋北遺跡（四條畷市） 参加者 約200人

・平成18年 2月26日

余部日置荘遺跡（堺市） 参加者 約60人

### ●職場体験学習

・平成17年 6月27日

四條畷市立田原中学校2年生25人に講話をおこなった。担当岩瀬透

### ●博物館実習

・平成17年 8月 5日・6日、8日～10日

(5日間)

立命館大学 2人の博物館実習生を受け入れた。

### ●速報展の開催

大阪府教育委員会が実施した発掘調査や遺物整理事業の成果をいち早く公開するため、大阪府立泉州考古資料館において「速報展」を開催した。

・第27回速報展「姿をあらわした渡来系の大集落—藤屋北遺跡—」

期 間：平成16年12月16日

～平成17年 4月10日

展示品：竹製の笄口を付けた須恵器1点、木製の栓を付けた須恵器1点、移動式かまど1点、U字形板状上器品1点、韓式系土器・陶質上器5点、瓶1点、製塩上器5点、木製輪鉗2点、琴柱3点、えぶり1点、刀形木製品1点、杓子1点、横幅1点、文様を施した曲刀子1点、刀子1点、鐵鍼3点、釣針1点、曲刀鍼1点、フイゴ羽口1点、鍛冶滓2点、ガラス玉2点、勾玉1点、白玉7点、双孔円板4点 計48点

・第28回速報展「古代の役所—半尾遺跡—」

期 間：平成17年 4月14日～8月24日

展示品：腰帶飾り3点、硯4点、斎串3点、鑄型1点、フイゴ羽口3点、土師器（壺・釜・片口鉢・椀）12点、須恵器（杯身・杯蓋・壺・漆壺・漆壺蓋・ヘラ記号をもつ壺）14点、軒丸瓦1点、軒平瓦1点、平瓦4点 計46点

・第29回速報展「文様の世界—雁屋遺跡出土の弥生土器—」

期 間：平成17年 8月25日～11月27日

展示品：文様のある弥生土器（壺・甕・高杯・台付鉢・手焙形土器・器台ほか）計31点

・第30回速報展「文字の刻まれた土器—陶器遺跡—」

期 間：平成17年12月 1日

～平成18年 3月 5日

展示品：文字を刻んだ須恵器10点、ヘラ記号をいれた須恵器22点、須恵器（横腹・壺・杯・皿・蓋・すり鉢・上鍤）8点 計40点

・第31回速報展「祈りの土器—祭祀に用いた品—」

期 間：平成18年 3月 9日～6月 4日

展示品：人面墨書き土器7点＜壹振遺跡・東郷遺

跡・成法寺遺跡〉、木製仮面1点〈尾道遺跡〉、人形6点〈西大井遺跡、河合遺跡〉、斎串4点〈總持寺遺跡、万崎池遺跡〉、土馬5点〈福井遺跡、船橋遺跡〉、ミニチュア土器3点〈河合遺跡〉、舟形木製品2点〈郡屋北遺跡・はさみ山遺跡〉、卜骨2点〈郡屋北遺跡〉、鳥形木製品1点〈讚良郡条里遺跡〉、鹿の線刻をもつ土器1点〈甲田南遺跡〉 計32点

～10月30日

展示品：陶邑窯跡群出土 須恵器・窯道具・瓦  
埋類 計172点  
<国重要文化財>

●府庁別館における考古資料の展示

府庁別館1階および8階の展示ケースに、発掘調査成果として出土品の展示をおこなった。  
・平成17年2月1日～8月5日

「大阪府指定有形文化財 指定記念特別展  
金銅僧形坐像及び金銅密教法具」(1階)

—普賢寺遺跡出土品—

展示品：金銅僧形坐像(推定 弘法大師像)1点  
金銅密教法具(火舍1点、六器碗3  
点・花焼5点、瀬水器蓋1点、塗香器  
鏡1点、花焼1点)12点、計13点

<大阪府指定文化財 有形文化財(考古資料)>  
「弥生人の日用品と最古級の馬鍔一本の本遺跡  
—」(8階)

展示品：馬鍔1点、弓1点、鏑1点、鉄1点、  
椅子1点、匙1点、杓子1点、石包丁  
3点、石斧1点、弥生土器(壺・甕・  
小型壺・小型甕・小型鉢・把手付鉢・  
異形土器)12点 計23点

・平成17年8月8日～平成18年2月14日

「国重要文化財指定記念

須恵器・陶邑窯跡群出土品」(1階)

展示品：陶邑窯跡群出土 須恵器

計19点

「姿をあらわした渡来系の大集落—萬屋北遺跡—」  
(8階)

展示品：竹製の注ぎ口を付けた須恵器1点、木  
製の栓を付けた須恵器1点、移動式か  
まど1点、U字形板状土器品1点、韓  
式系土器・陶質土器3点、瓶1点、  
木製輪鉢2点、琴柱3点、えぶり1点、  
刀形木製品1点、杓子1点、文様を施  
した曲刀子1点、曲刃鎌1点、計18点

・平成18年2月15日～平成18年8月(予定)

「文様の世界—萬屋遺跡出土の弥生土器—」

(1階)

展示品：文様のある弥生土器(壺・甕・高杯  
・鉢・手焙形土器・器台) 計9点

「總持寺古墳群—太田茶臼山古墳を中心とする  
在地有力者層の古墳群—」(8階)

展示品：總持寺古墳群出土 紡錘車1点、須恵器  
(杯蓋・壺・高杯)5点、馬形埴輪3点、  
鶏形埴輪1点、家形埴輪2点、太田茶臼  
山古墳出土 円筒埴輪4点 計16点

●優品展の開催

大阪府教育委員会が所蔵する特に重要な考古  
資料を公開するため、大阪府立泉北考古資料  
館において「優品展」を開催した。

・第5回優品展「京焼と湊焼—府立大阪博物館旧  
蔵の近世陶磁器—」

期 間：平成17年3月25日

～9月25日

展示品：古清水色絵雄子香炉1点、古清水色絵  
梅桐文麻葉透六角鉢1点、古清水色絵  
蒲公英文菱向付10点、湊焼釉牡丹文  
皿1点、湊焼黄地手彫形水差1点、湊  
焼釉四方水注1点、湊焼黄地土瓶1  
点 計16点

<大阪府指定文化財 有形文化財(工芸品)>  
・第6回優品展「瀬戸焼と美濃焼—府立大阪博物  
館旧蔵の近世陶磁器—」

期 間：平成17年10月6日

～12月25日

展示品：美濃焼青織部花文四方鉢1口、美濃焼  
黄瀬戸釉獅子形屏風挿1対、瀬戸焼掲  
釉大海茶入1口、瀬戸焼御深井釉網目  
透瓶掛1口、瀬戸焼絵瀬戸人物文色絵  
皿2枚 計6点

<大阪府指定文化財 有形文化財(工芸品)>  
・第7回優品展「伊万里焼—府立大阪博物館旧蔵  
の近世陶磁器—」

期 間：平成18年1月12日～4月2日

展示品：伊万里焼色絵傘人物花鳥文壺1口、伊  
万里焼色絵寿字独楽形鉢1対

計3点

<大阪府指定文化財 有形文化財(工芸品)>

●特別展の開催

陶邑窯跡群出土の須恵器等が、国の重要文化財に  
指定されたことを記念して「特別展」を開催した。

・特別展「国重要文化財指定記念

窯業史に輝く陶邑」

期 間：平成17年7月28日

● 資料数一覧（平成18年3月末現在）

A 出土遺物（整理箱数）	
・泉北考古資料館内第1収蔵庫	10,559箱
堺市若松台	
・泉北収蔵庫	33,838箱
高石市綾園4丁目	
・大井収蔵庫	12,784箱
藤井寺市西大井	
・外環高架下収蔵庫	7,592箱
藤井寺市西古室	
・志紀収蔵庫	3,097箱
八尾市志紀町西	
・北部収蔵庫	3,099箱
摂津市鳥飼中	
・東大阪文化財収蔵庫	73,900箱
東大阪市長田東	
・文化財調査事務所	9211箱
堺市竹城台	

合計 154,080箱

B 民俗資料

・文化財調査事務所	
谷口家資料	221点
上辻家資料	132点
守田コレクション	約200点
上平家資料	150点
畠野家資料	68点
三宅家資料	一括
大恩寺資料	一括
前西家資料	22件
C その他の資料	
・文化財調査事務所	
図面資料	4,777ケース
写真資料	7,123ケース
台帳	2658冊
パネル	705点
図書	3,3493冊

## 平成17年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧

<平成17年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物>

大阪府埋蔵文化財調査報告

- 2005-1 「菅振遺跡・II」
- 2005-2 「福井遺跡・II」
- 2005-3 「雁屋遺跡」
- 2005-4 「古井遺跡」
- 2005-5 「大堀遺跡」
- 2005-6 「新堂遺跡」
- 2005-7 「新上小阪遺跡」

概要報告

- 「藤屋北遺跡発掘調査概要・III」
- 「藤屋北遺跡発掘調査概要・IV」
- 「藤屋北遺跡発掘調査概要・V」
- 「陶器千塚・陶器遺跡発掘調査概要・II」
- 「中畑遺跡発掘調査概要・II」
- 「加納古墳群・平石古墳群発掘調査概要V」
- 「千里遺跡群発掘調査概要」
- 「安威遺跡・安威城跡発掘調査概要」
- 「桑原遺跡発掘調査概要」
- 「大阪府教育委員会文化財調査事務所年報・9」

平成17年度資料の貸出・掲載・閲覧事業一覧

長期貸出資料

番号	貸出・展示先	遺跡名	資料名	点数	備考
1	九州国立博物館	陶邑窯跡群	須恵器	29	展示
2	富田林土木事務所 (大阪府立铁山池博物館)	池尻城跡	青金	1	展示
		大和川今池遺跡	鳥	1	
3	大阪府立ドーンセンター	大坂城跡	美濃焼	8	展示
			志野焼	2	
			中国製白磁	1	
			青花	1	
			ベトナム製色絵皿	1	
4	大阪府立西成高校	喜志遺跡 八尾南遺跡 萱振遺跡 崇禪寺遺跡 陶器南遺跡	弥生土器	1	展示
			土師器	5	
			土篋器	1	
			須恵器	10	
			須恵器	一括	
			写真パネル等	3	
5	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔瓦	3	展示
			重圓文軒丸瓦等	2	
			須恵器	1	
			白磁	1	
			美濃焼	1	
			青花	1	
			天日茶碗	1	
			分銅	1	
			銅	1	
			笄	1	
			写真パネル等	4	
6	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦	10	展示
			軒平瓦	8	
			鬼瓦	3	
			雁振瓦	1	
			瓦器	7	
			土師皿	11	
			擂鉢	1	
			土師簧羽釜	1	
			陶磁器	5	
			鏡	1	
7	大阪府立茨山高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器	2	展示
			須恵器	15	
			土師器	14	
			瓦器	34	
			磁器	2	
			砥石	1	
			木製品	5	
			土鍤	1	
			キセル	1	
			加工骨	1	
			展示パネル	16	
8	大阪府立四條畷高校	雁尾遺跡	弥生土器	20	展示
			土師器	1	
			須恵器	6	
			木器	2	
			石器	3	
			青銅製品	3	
		史良岡山1号墳	埴輪	1	
9	大阪府立八尾北高校	萱振遺跡	弥生土器	4	展示
			土師器	1	
			須恵器	5	
			埴輪	7	
			勾玉など	14	
			写真パネル等	一式	
10	能勢町歴史資料室	大里遺跡	弥生土器	9	展示
			土師器	7	

番号	貸出・展示先	遺跡名	資料名	点数	備考
			須恵器	5	
			石包丁	4	
			石斧	3	
			石鏃	7	
			石錐	1	
		上椿遺跡	須恵器	1	
		尾道遺跡	円筒瓦	1	
			須恵器	3	
			土師器	1	
		九ノ坪遺跡	黒色土器	2	
			土師器	3	
11	豊能町立郷土資料館	余野城遺跡	瓦器碗等	27	展示
			土師器	4	
			須恵器	3	
			砥石	1	
12	吹田市立博物館	吉志部瓦窯	板舟八葉蓮華紋軒丸瓦	1	展示
			均整唐草紋軒半瓦	1	
			碌碡陶器片	2	
			碌碡瓦片	6	
			窯道具	6	
13	藤井寺市立図書館展示室	三ツ塚古墳	小型修羅	1	展示
14	美原町立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器碗	27	展示
			瓦器皿	6	
			瓦質羽釜	1	
			土師器皿	1	
			鋳型片	29	
			鰐羽口片	18	
			鉄製刀子	1	
			青銅製品	2	
			鉄塊系遺物	7	
			砥石	7	
15	太子町立竹ノ内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製金具(複製)	一式	展示
16	池上曾根跡生学館	池上曾根遺跡	炭化米	1ケース	展示
17	和泉市いすみの国歴史館	府中遺跡	弥生土器	10	展示
			蛸姫	2	
		坂本寺遺跡	軒丸瓦	5	
			軒平瓦	5	
		大園遺跡	有舌尖頭器	2	
			勾玉	3	
			防鏽車	1	
		池上曾根遺跡	弥生土器	15	
			木製品	24	
			人形石包丁	2	
			石斧	11	
			石槍	5	
			投彈	3	
			石錐	2	
			鬱座勾玉	1	
			管玉	5	
			ガラス片	3	
			骨角器	7	
			獸骨	1	
			腕角	1	
			銅鑼	2	
			八稜鏡	1	
			文字瓦	1	
		池田寺跡	文字瓦、軒丸瓦、軒平瓦など	16	
		信太寺跡	文字瓦、軒丸瓦、軒平瓦など	6	
		和泉寺	軒平瓦など	6	
18	サイエンス・サテライト	三軒屋遺跡	縄文土器	1	展示
		池上曾根遺跡	弥生土器	1	
19	吉志部神社	吉志部瓦窯	單弁十六葉蓮華文軒丸瓦	1	展示
			平瓦	1	

番号	貸出・展示先	遺跡名	資料名	点数	備考
			縄輪瓦片	2	
			トチン	2	
20	高石市教育委員会	大國古墳	埴輪片他	100 箱	展示
21	泉佐野市教育委員会	上町・上町東・大西・中岡 植田池・日根野・長瀬遺跡他	泉佐野市域における空港連絡 道路、連絡施設事業に伴う発 掘調査出土遺物	1,852 箱	資料整理
22	抵辯市教育委員会	明和池遺跡	土器・石器など	75 箱	展示
23	府立弥生文化博物館	四ツ池遺跡	土器・石器など	552 箱	展示
		池上曾根遺跡	土器・石器など	83 箱	
24	国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石庖丁など	3 点	展示

短期資料貸出

番号	依頼者	遺跡名	資料名	点数	用途
1	発掘された日本列島展実行委員会	池上曾根遺跡	勾玉	1	展示
2	柏原市立歴史資料館	古窓跡瓦窓	軒瓦	4	展示
3	八尾市歴史民俗資料館	堂山1号墳	円筒埴輪	1	展示
4	個人	岸和田城跡	陶磁器	16	講演資料
5	個人	陶邑窯跡群	須恵器	10	講演資料
6	個人	陶邑窯跡群	須恵器	10	講演資料
7	和泉市いづみの国歴史館	信太寺跡	軒瓦	6	展示
		池田寺跡	軒瓦・石製品	16	
		坂本寺跡	軒瓦	1	
		和泉寺跡	軒瓦	6	
		秦庵寺	軒瓦	5	
8	大谷女子大学博物館	萱振1号墳	円筒埴輪	1	展示
		津交城山古墳	円筒埴輪	2	
		高塚山古墳	円筒埴輪	2	
		仲津姫陵古墳外堤	円筒埴輪	2	
9	府立中之島図書館	絶持寺遺跡	文字瓦	1	展示
		陶器遺跡	文字瓦	1	
		長曾根遺跡	墨書き土器	1	
		新庄院寺	文字瓦	1	
		菱木下遺跡	文字瓦	2	
		大坂城跡	文字瓦	1	
		大坂城下層・石山本願寺	将棋駒	7	
10	府立近つ飛鳥博物館	陶邑窯跡群 TK73	須恵器	8	展示
		陶邑窯跡群 TK85	須恵器	4	
		陶邑窯跡群 TK83	須恵器	3	
		陶邑窯跡群 TK13	須恵器	17	
		陶邑窯跡群 TK109	須恵器	3	
		陶邑窯跡群 MT216	須恵器	1	
		陶邑窯跡群 TK218	須恵器	3	
		陶邑窯跡群 TK85	須恵器	6	
		陶邑窯跡群 TG44	須恵器	1	
		陶邑窯跡群 KM128	須恵器	1	
		陶邑窯跡群 TG63	須恵器	3	
		陶邑窯跡群 KM3	須恵器	2	
		陶邑窯跡群 TG61	須恵器	7	
		陶邑窯跡群 TG32	須恵器	10	
		陶邑窯跡群 TG206	須恵器	4	
		陶邑窯跡群 TG11	須恵器	3	
		陶邑窯跡群 TG222	須恵器	2	
		陶邑窯跡群 TG40	須恵器	2	
		陶邑窯跡群 KM301	須恵器	14	
		陶邑窯跡群 KM226	須恵器	11	
		陶邑窯跡群 KM131	須恵器	5	
		陶邑窯跡群 KM29	須恵器	6	
		陶邑窯跡群 KM36	須恵器	7	
		陶邑窯跡群 MT220	須恵器	6	
		陶邑窯跡群 TK230	須恵器	3	
		野々井遺跡 17号墳	須恵器	11	
		御屋北遺跡	土製品	1	

番号	依頼者	遺跡名	資料名	点数	用途
11	個人	秦廟寺	軒瓦	2	譲渡資料
12	(財) 大阪府文化財センター	寛弘寺遺跡	小網繩	1	展示
13	(財) 大阪府文化財センター	總持寺遺跡	須恵器	14	展示
		總持寺遺跡	埴輪	2	
		寛弘寺遺跡	須恵器	6	
14	滋賀県立安土城考古博物館	応神陵古墳外堀	埴輪	14	展示
		津章城山古墳	円筒埴輪	2	
		仲津姫陵古墳外堀	円筒埴輪	2	
		西小山古墳	埴輪	13	
		西陵古墳	円筒埴輪	4	
15	太子町竹内街道歴史資料館	シショツカ古墳	鉄製品など	20	展示
		加納2号墳	太刀	1	
		寛弘寺75号墳	鉄製品	9	
16	大阪市立大学・個人	陶邑窯跡群 TK13	炭	3	分析
17	(財) 大阪府文化財センター	大谷池窯跡	須恵器	5	分析
18	(財) 大阪府文化財センター	招提中町遺跡	弥生土器	5	分析
19	奈良大学・個人	平尾遺跡	ルツボ	5	分析
20	(財) 大阪府文化財センター	新堂庭寺	織刻瓦	1	展示
		僧寺跡	織刻瓦	1	
21	貝塚市教育委員会	男里遺跡	绳紋土器・弥生土器	7	展示

写真など掲載許可

番号	依頼者	遺跡	資料	点数	用途・備考
1	藤井寺市教育委員会	津章城山古墳	埴輪検出状況写真	1	ホームページ
2	(財) 大阪市文化財協会	御勝山古墳	外観全景写真	1	展示パネル
3	発掘された日本列島実行委員会	池上曾根遺跡	勾玉写真	1	図録
4	第一学習社	大坂城跡	木闌橋写真	1	学校教材副読本
5	P H P研究所	南花田遺跡	ナノイ形石器集合写真	1	文庫本
			翼状鰐片集合写真	1	
6	柏原市立歴史民俗資料館	古室遺跡瓦窯	軒瓦写真	3	図録
7	大阪日日新聞	加美遺跡	大港写真	1	新聞
8	個人	和泉国分寺	瓦出土状況写真	1	学術雑誌
9	吉川弘文館	中津姫陵古墳	埴輪写真	1	単行本
		応神天皇陵古墳	埴輪写真	1	
10	(財) 大阪府文化財センター	福井遺跡	航空写真	2	報告書
11	北加納地区公民館	シショツカ古墳	外観全景写真	1	展示パネル
12	河内長野市立郷土資料館	池上曾根遺跡	方形周溝墓群写真	1	図録・展示パネル
13	伊万里市市立図書室	古市古墳群	航空写真	1	市史
14	岩波書店	新堂庭寺	シリ写真	1	単行本
15	堺市広報部	昭和池遺跡	石蹴写真	1	広報誌
16	新日本出版社	三塚古墳群	航空写真	1	単行本
17	堺市広報部	昭和池遺跡	鐵鍛写真	1	広報誌
18	個人	御勝山古墳	三角縁神獸鏡写真	1	単行本
19	韓国KBS放送局	那屋北遺跡	船形木製品	1	特集番組
			コシキ形土器	1	
20	N H K大阪放送局	大坂城跡	木闌橋	1	特集番組
21	冬陽社	陶邑窯跡群	須恵器集合写真	1	学校教材副読本
22	日本歴史学会	シショツカ古墳	外観全景写真	1	学術雑誌
		アカハゲ古墳	外観全景写真	1	
		ツカマリ古墳	外観全景写真	1	
		シショツカ古墳	石室写真	1	
		シショツカ古墳	出土土器・瓦・刀写真	3	
23	泉佐野市教育委員会	三軒家遺跡	遺構写真	7	市史
		桜波羅要寺跡	航空写真	1	
24	八尾市歴史民俗資料館	堂山1号墳	遺構写真	2	図録
			出土埴輪・鉄製品など写真	15	
		御旅山古墳	外観全景写真	1	
			遺物出土状況写真	1	
			三角縁神獸鏡など写真	3	
25	堺市広報部	陶邑窯跡群	須恵器集合写真	2	広報誌

番号	依頼者	遺跡	資料	点数	用途・備考
26	貝塚市教育委員会	男里遺跡	出土土器写真	7	図録
27	個人	紅葉山遺跡	遺構写真	10	講演スライド
28	個人	郡屋北遺跡	滑石製品計測表	一式	学術雑誌
29	相模市いづみの国歴史館	信太寺跡	瓦写真	6	図録
		池田寺跡	瓦写真	15	
		坂本寺跡	石製品写真	1	
		和泉寺跡	瓦写真	6	
		秦窯寺	瓦写真	5	
30	マルチクリエイト	陶邑窯跡群	須恵器写真	1	学校教材副読本
		萱振遺跡	土器写真	1	
31	大阪書籍	はさみ山遺跡	旧石器時代復元住居写真	1	学校教材副読本
		陶邑窯跡群	復元のぼり窯写真	1	
32	日本考古学協会	ツカマリ古墳	外観全景写真	3	学術雑誌
33	個人	岸和田城跡	外観全景写真	2	単行本
			出土鉄製品・陶磁器写真	2	
		陶器遺跡	出土陶磁器写真	1	
		堺瀬瀬都市遺跡	出土タイ産陶磁器	1	
		大坂城跡	銅金状況写真	1	
			出土金箔瓦・太陽橋写真	2	
34	個人	余部遺跡	調査状況写真	16	講演スライド
		岡遺跡	調査状況写真	8	
35	新泉社	池上曾根遺跡	調査状況写真	8	単行本
36	個人	陶邑窯跡群	須恵器集合写真	1	
			調査状況写真	1	
37	大阪府立近つ飛鳥博物館	陶邑窯跡群	銅金状況写真	13	図録
			須恵器集合写真	4	
38	ボプラ社	池島遺跡	弥生時代水田遺構写真	1	単行本
39	個人	大師山古墳	遺構四面写真	1	
			出土石製品・鏡写真	6	学術雑誌
40	個人	栗窯寺	瓦写真・拓本	2	学術雑誌
41	タイムス	ツカマリ古墳	外観全景写真	1	新聞
42	四条畷市教育委員会	雁屋遺跡	弥生時代線刻下器写真	1	市史
		御屏北遺跡	遺構写真	3	
			出土鉄製品写真	1	
43	(財) 大阪府文化財センター	寛弘寺遺跡	航空写真	1	図録
			遺構写真	1	
		新庄遺跡	遺構写真	1	
44	デアゴスティーニジャパン	大坂城跡	木闌構写真	1	雑誌
45	(財) 大阪府文化財センター	純持寺遺跡	遺構モザイクパネル	1	展示パネル
		猪屋遺跡	遺構モザイクパネル	1	
		純持寺遺跡	航空写真・遺構写真	3	図録
		西福井遺跡	航空写真・遺構写真	1	
		寛弘寺遺跡	航空写真・遺構写真	5	
46	ベンハウス	陶邑窯跡群	泉州考古資料館展示風景写真	5	単行本
47	滋賀県立安土城博物館	中津姫殿古墳	遺構写真	2	
48	吹山区教育委員会	古志部丘墓	遺構写真	1	現地説明板
49	(財) 大阪府文化財センター	百濟寺跡	瓦拓本	8	報告書
50	大阪府立泉大津高校	信太千塚古墳群	埴輪写真	1	図録
			土玉写真	1	
51	藤井寺市教育委員会	シショツカ古墳	調査状況写真	1	ガイドブック
			出土須恵器写真	1	
		衣籠庵寺	瓦写真	1	
52	個人	陶邑窯跡群	泉州考古資料館展示風景写真	1	学術雑誌
		鏡音寺遺跡	出土埴輪集合写真	1	
		仁德天皇陵古墳	航空写真	1	
		陶器遺跡	出土須恵器集合写真	3	
53	個人	陶邑窯跡群	出土須恵器写真	4	学術雑誌
			出土須恵器集合写真	6	
			復元のぼり窯写真	1	
		田井中遺跡	弥生土器集合写真	1	
		龜井遺跡	弥生土器写真	1	
		雁屋遺跡	弥生土器集合写真	1	

番号	依頼者	遺跡	資料	点数	用途・備考
54	時空創立	池上曾根遺跡	弥生土器集合写真	2	単行本
		巻屋遺跡	縦刻土器写真	1	
		雁屋遺跡	遺構写真	1	
55	堺市立博物館	平尾遺跡	出土石製品・礎写真	1	広報誌
56	太子町立竹内街道歴史資料館	シショウカ古墳	遺構写真	2	図録
		加納2号墳	遺構写真	2	
		アカハゲ古墳	遺構写真	2	
		ツカマリ古墳	遺構写真	2	
		寛弘寺古墳群	遺構写真	4	
			出土鉄製品など写真	10	
			縦刻瓦写真	2	
		信太寺跡	窓穴住居写真	1	
57	和泉市教育委員会	寛弘寺遺跡	遺構航空写真	1	市史
58	(財) 大阪府文化財センター				図録・パネル

資料閲覧

番号	所属	遺跡名	資料内容	保管場所	目的
1	北海道大学総合博物館	南邑窟跡群	須恵器	泉北考古資料館	学術研究
2	大谷女子大学	仲津船形古墳外堤	円筒埴輪	調査事務所	
3					
4					
5	高槻市埋蔵文化財センター	津堂遺跡	中世土器	大井収蔵庫	
6	大阪人大学	土師ノ里遺跡	土師器	調査事務所	
7	大阪市立大学	陶邑窟跡群 TK13号塚	灰原の炭	泉北収蔵庫	
8	千里赤阪村教育委員会	堺環濠都市遺跡	石塔		
9	(財) 大阪府文化財センター	招提中町遺跡	軒瓦	調査事務所	
10	NPO 法人国際文化財研究所 難波大学	藤屋北遺跡	韓式系土器・須恵器		
11	大手前大学	中百舌鳥遺跡・大坂城跡	近世・近代の陶磁器	泉北収蔵庫	
12	名古屋大学	河内国分寺跡	軒瓦	泉北考古資料館	
13	大手前大学	中百舌鳥遺跡・大坂城跡	近世・近代の陶磁器	泉北収蔵庫	
14	大谷女子大学	高塚山古墳	円筒埴輪	調査事務所	展示計画
15		津堂城山古墳・萱振1号塚・ 仲津船形古墳外堤・高塚山古墳			
16	(財) 大阪市文化財協会	藤原北遺跡・寺田遺跡	滑石製品		学術研究
17	京都大学	萱振1号墳	円筒埴輪		
18					
19	忠清文化財研究所	陶邑窟跡群・陶器遺跡・堀川	須恵器	泉北考古資料館・ 調査事務所	
20	立命館大学	需屋北遺跡	製塙土器	調査事務所	
21	京都大学	萱振1号墳・土師ノ里遺跡	円筒埴輪		
22			形象埴輪		
23		青山古墳群・日置莊埴輪窯	円筒埴輪		
24		淡輪遺跡・府中遺跡	繩紋土器		
25					
26	(財) 大阪府文化財センター	百濟寺跡	軒瓦	泉北考古資料館	報告書作成
27	和泉市教育委員会	和泉寺跡・僧寺跡・坂本寺跡・崇福寺	軒瓦・道具瓦	調査事務所	展示計画
28	枚方市教育委員会	秦寺跡	軒瓦		学術研究
29	京都大学	淡輪遺跡	繩紋土器		
30					
31	堺市埋蔵文化財センター	堺環濠都市遺跡・大坂城跡	李朝陶磁	泉北収蔵庫	展示計画
32	和泉市教育委員会	池山寺跡	軒瓦・土器・石製品	調査事務所	学術研究
33	京都大学	淡輪遺跡	繩紋土器		
34	(財) 大阪府文化財センター	百濟寺跡	軒瓦		報告書作成
35	京都大学	上遺跡	繩紋土器	長田収蔵庫	学術研究
36					
37		藤森古墳	鉄製品	調査事務所	

番号	所 属	遺 跡 名	資 料 内 容	保 管 場 所	目 的
38		孤冢古墳・弁天山 D2 号墳・寛弘寺 1 号墳・野間中古墳・板持 3 号墳・神山丑禪古墳群・亀井遺跡・名古山古墳	鉄製品		
39	大谷女子大学	矢倉古墳・青山古墳群・大坂城下層遺跡	円筒埴輪		
40	(財) 大阪府文化財センター	大谷池窓跡	須恵器	泉北考古資料館	報告書作成 学術研究
41	明治大学	陶邑窓跡群			
42	大谷女子大学	青山古墳群	円筒埴輪	調査事務所	
43	鳥根縣古代文化センター	シショツカ古墳・弁天山 D4 号墳・初出 2 号墳・牛石 7 号墳・槍尾塚原 6 号墳・8 号墳・9 号墳	ガラス玉		
44	熊本大学	藤森古墳・寛弘寺 1 号墳・75 号墳・牛石 7 号墳・板持 3 号墳・名古山古墳・みかん山古墳群	鉄製品		
45	愛媛大学	陶邑窓跡群	須恵器	泉北考古資料館	
46	駒澤大学	深田遺跡・觀音寺遺跡・陶器遺跡		調査事務所	
47	京都大学	久宝寺遺跡・黄振遺跡	古式土師器		
48					
49	忠清文化財研究所	陶邑窓跡群・陶器遺跡・都城北遺跡・寺田遺跡	須恵器	泉北考古資料館・調査事務所	
50	安土城考古博物館	応神天皇陵古墳・津堂城山古墳・仲津姫陵古墳外堀・仲哀天皇陵古墳・仁賢天皇陵古墳・西小山古墳・西陵古墳	円筒埴輪・形象埴輪	調査事務所	展示計画
51	高田林市教育委員会	お龜石古墳	瓦		学術研究
52	施見島県埋蔵文化財センター	陶邑窓跡群・陶器遺跡	須恵器	泉北考古資料館・調査事務所	
53	(財) 大阪府文化財センター	招提中町遺跡	弥生土器	調査事務所	報告書作成
54	筑波大学	陶邑窓跡群	須恵器	泉北考古資料館	学術研究
55		陶邑窓跡群・觀音寺遺跡・陶器遺跡		泉北考古資料館・調査事務所	
56	大阪大学	八尾南遺跡・国府遺跡・西大井遺跡・はさみ山遺跡	旧石器	調査事務所	
57	(財) 大阪府文化財センター	陶邑窓跡群・堂山一旁墳	須恵器	泉北考古資料館	報告書作成
58	総合地球環境学研究所	木の本遺跡・田井中遺跡	木製品	調査事務所	学術研究
59	(財) 大阪府文化財センター	龍持寺古墳群・寛弘寺古墳群	埴輪・須恵器		展示計画
60	太子町教育委員会	シショツカ古墳・加納二号墳・寛弘寺 75 号墳	ガラス玉・鉄製品・須恵器		
61	人野城市教育委員会	陶邑窓跡群	須恵器	泉北考古資料館	報告書作成
62	(財) 大阪府文化財センター	新堂廃寺・信太寺跡	線刻瓦	調査事務所	展示計画

## 平成17年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

課長 保存管理グループ

参事 指定文化財グループ

### 【文化財保護課】

TEL 06 (6941) 0351 (代表)

調査管理グループ 資料総括 主査 榎本高明 センター指導・調整、事業費調査等

分室長(参事) 主査 大野 薫 主査 大崎喜久雄 算算及び施工等

玉井 功 技師 林日佐子 遺物整理、奈北考古資料館協力等

技師 萩田道子 遺物整理等

調査第一グループ 調査第一総括 主査 一柳和夫 発掘調査、調整、指導(豊能、三島)

調査第一補佐 主査 岩崎二郎 主査 让本 武 発掘調査、調整、指導(中、北河内)

瀬川 健 技師 岩瀬 透 発掘調査

技師 横田 明 発掘調査

技師 井西貴子 発掘調査

技師 関田 賢 発掘調査

技師 小川裕見子 発掘調査

調査第二グループ 調査第二総括 主査 藤澤真依 発掘調査、調整、指導(泉州)

調査第二補佐 主査 西口陽一 技師 桜木 哲 発掘調査

高島 薫 技師 上林史朗 発掘調査

技師 阿部幸一 発掘調査

技師 三木 弘 発掘調査

技師 地村邦夫 発掘調査

技師 桜木清美 発掘調査

技師 関 真一 発掘調査

### 【文化財調査事務所】

TEL 072 (291) 7401

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報10

発行日 2006年9月29日

発 行 大阪府教育委員会

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目3-12

☎06-6941-0351

編 集 大阪府教育委員会文化財調査事務所

〒590-0105

堺市南区竹城台3丁21-4

☎072-291-7401

印 刷 株式会社 近畿印刷センター

柏原市本郷5丁目6番25号

☎072-972-5918

